

鹿児島県総合教育センター
平成26年度長期研修研究報告書

研究主題

郷土のよさを多面的に実感し、
郷土を愛する児童を育てる道徳学習の在り方
—各教科等との関連を図った道徳の時間の指導を通して—

始良市立帖佐小学校

教諭 四元 大輔

目次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	1
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	2
1	研究主題についての基本的な考え方	2
(1)	「郷土」の捉え方	2
(2)	「郷土のよさを多面的に実感する」とは	2
(3)	「郷土を愛する児童」とは	3
(4)	「各教科等との関連を図る」とは	4
2	郷土と道徳的価値「郷土愛」に関する実態調査の分析と考察	4
(1)	実態調査の概要	4
(2)	実態調査の結果と分析	5
(3)	実態調査の考察とまとめ	5
3	道徳的価値「郷土愛」の分析	6
(1)	道徳的価値「郷土愛」に関わる内容項目の系統性	6
(2)	道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の要件	6
4	各教科等との関連を図った道徳の時間の工夫	7
(1)	各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の手順	7
(2)	各教科等との関連を図る工夫	10
5	道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫	10
(1)	指導の要件を踏まえた板書の工夫	10
(2)	道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める発問の工夫	11
(3)	郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫	11
6	検証授業の実際と考察	12
(1)	検証授業Ⅰの実際と考察	12
(2)	検証授業Ⅱの実際と考察	16
7	検証授業Ⅰ・Ⅱを通じた児童の実態及び変容の分析と考察	26
(1)	ワークシートの記述から	26
(2)	道徳の時間との関連を図った国語科の学習から	27
(3)	事後アンケートの結果から	27
IV	研究のまとめ	28
1	研究の成果	28
2	今後の課題	28

※ 引用・参考文献

I 研究主題設定の理由

今日、知識基盤社会において、かつてないスピードで進行している少子高齢化や家族形態の変化に伴う地域のつながりの希薄化が問題となっている。平成18年には教育基本法が改正され、新しい時代の教育の基本理念が明示された。その中に、我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成が掲げられている。小学校学習指導要領では、道德教育の目標として、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る日本人の育成を掲げている。そのため、学校教育においては、児童に郷土に対する愛着や認識を深めさせ、郷土を愛する心や態度を育むことが大切である。

始良市では、国・県の施策を受け、始良市教育振興基本計画を設定し、「ふるさとを愛し 未来を切り拓く 心豊かでたくましい人づくり」を目標に、「郷土の自然、歴史、伝統、文化を尊重し、それらをはぐくんできた郷土を愛する態度を養い、夢と志を持ち、自他と公共の精神でこれからの社会づくりに貢献できる人間」の育成に取り組んでいる。本校においては、豊かな自然や文化遺産を生かして、学校の近くに流れている川の生態調査や学校周辺にある文化財のフィールドワーク、400年の歴史がある帖佐人形作りなどの、児童が郷土に親しむ体験活動を設定している。しかし、多くの児童が、自分の地域のことは好きであるが、郷土について、表面的・断片的な捉えにとどまっている。また、自分自身の道德の時間の指導について振り返ると、道德的価値の自覚を深めるための手立てが不十分であったため、児童が郷土との関わりについて意識せず、自己の生き方についての考えを深めることができなかった。

この原因を考えると、次の3点が挙げられる。第一に指導者側が道德的価値「郷土愛」や郷土について十分に理解していなかったことである。第二に道德の時間と各教科等で学習したことが効果的に機能していなかったことである。第三に道德の時間において学ばせたことを、道德的実践までつなげることができなかったことである。

そこで、本研究では、これらのことを解決するために、郷土を構成する要素と道德的価値「郷土愛」の分析を基に、各教科等との関連を図った道德の時間を構想する。具体的には、まず、郷土を構成する要素を分類・整理する。また、郷土を愛する児童の段階を明らかにする。次に、各教科等との関連を図る視点と道德の時間の構想の手順を明らかにする。さらに、児童が道德的価値「郷土愛」の自覚を深めるための指導の在り方について明らかにする。このような各教科等との関連を図った道德の時間を構想し、道德的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫を行うことで、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

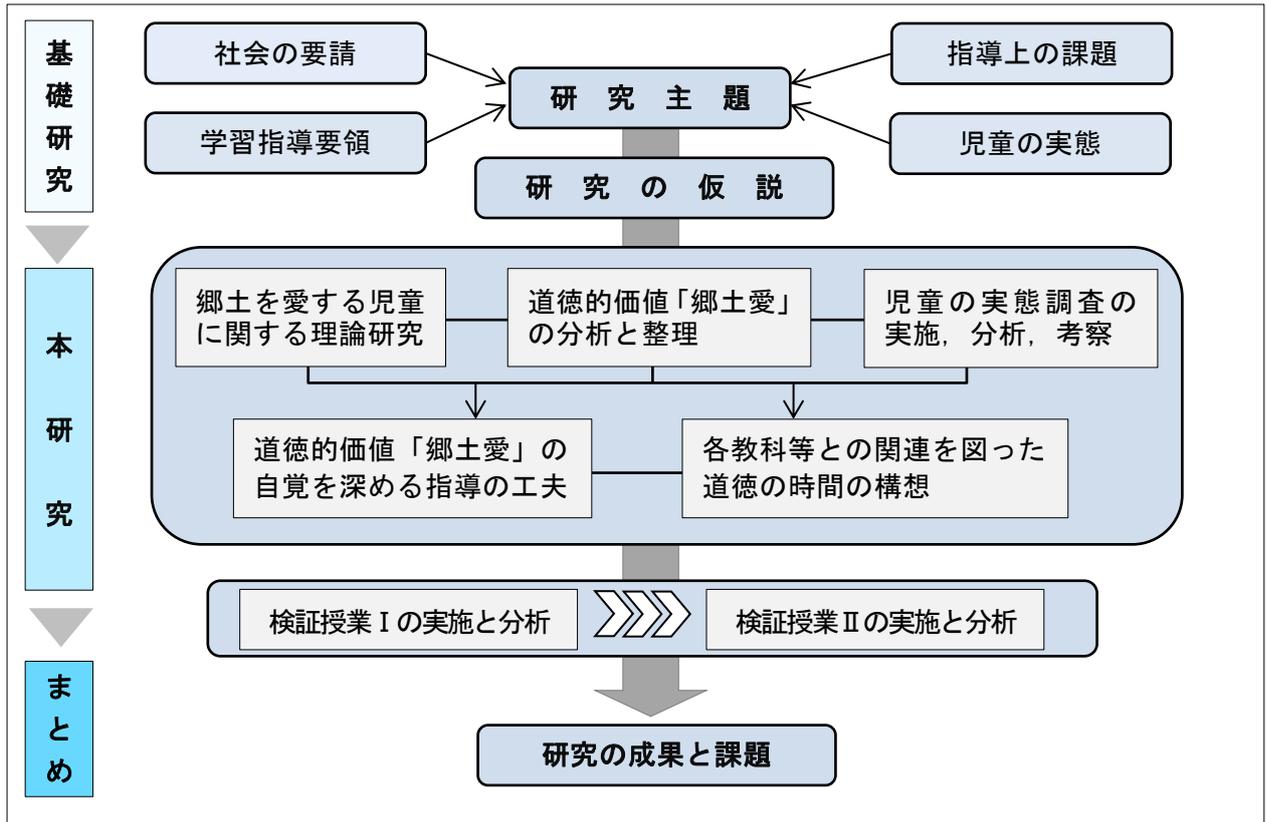
1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領や参考文献等を基に、道德的価値「郷土愛」の分析を行う。
- (2) 郷土と道德的価値「郷土愛」に関する児童や教師の意識調査を行い、分析する。
- (3) 児童の発達の段階や実態に即した各教科等との関連を図った道德の時間の構想の在り方を明らかにする。
- (4) 道德の時間において、道德的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫を行う。
- (5) 検証授業を通して、成果と課題を整理し、今後の学習や指導に生かしていく。

2 研究の仮説

郷土を構成する要素と道德的価値「郷土愛」の分析を基に、各教科等との関連を図った道德の時間を構想し、道德的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫を行えば、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てることができるのではないかと考えられる。

3 研究の計画



Ⅲ 研究の実際

1 研究主題についての基本的な考え方

(1) 「郷土」の捉え方

本研究において、「郷土」とは、自分の生まれ育った場所に、生活した場所、生活している場所を含めて捉えることにする。近年、交通、産業、経済等の発達に伴い、生まれた場所を離れ、新たな場所に生活する人々も増加してきている。自分の生まれ育った場所だけでなく、自分の生活した場所、生活している場所にも愛着や誇りを持ち、主体的に関わっていくことは、郷土を愛する心を高めるために大切である。

(2) 「郷土のよさを多面的に実感する」とは

「郷土のよさを多面的に実感する」とは、郷土を「人・もの・こと」の構成要素で捉え、それらの知識・理解を深めるとともに、見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりすることである。また、各構成要素には図1に示すように、複数の項目があり、それぞれのよさに対して多面的に捉えることができる。例えば、「人」という要素には、郷土の人、郷土の先人などがあり、その人たちの生き方や功績、郷土に対する思いなどを感じ取ったり、児童自らがそれらに積極的に関わったりすることで郷土のよさを多面的に実感するのである。郷土を愛する児童を育てるためには、このように児童と郷土との双方向的な関わりが大切である。

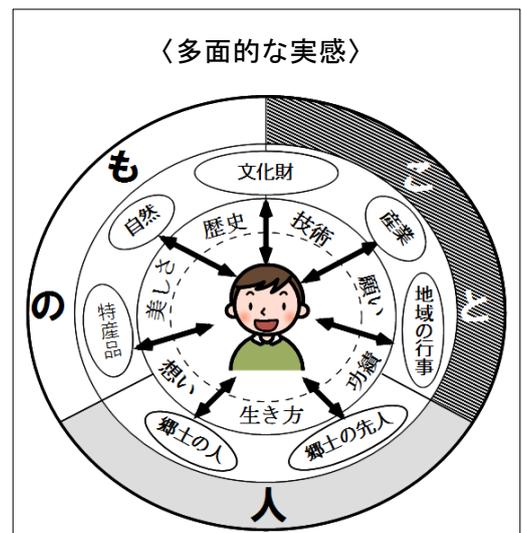


図1 郷土の構成要素と多面的な実感

(3) 「郷土を愛する児童」とは
「郷土を愛する児童」とは、「郷土に親しもう」、「郷土を大切にしよう」、「郷土をよりよくしよう」などの「郷土を愛する心」をもち、その心の高まりに伴って愛着や誇りをもつと同時に、郷土に対して主体的・能動的な関わりをもつ児童のことである。児童が、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する心が高まるとともに、その関わり方も偶発的・受動的な関わりから主体的・能動的な関わりに変容していく(図2)。

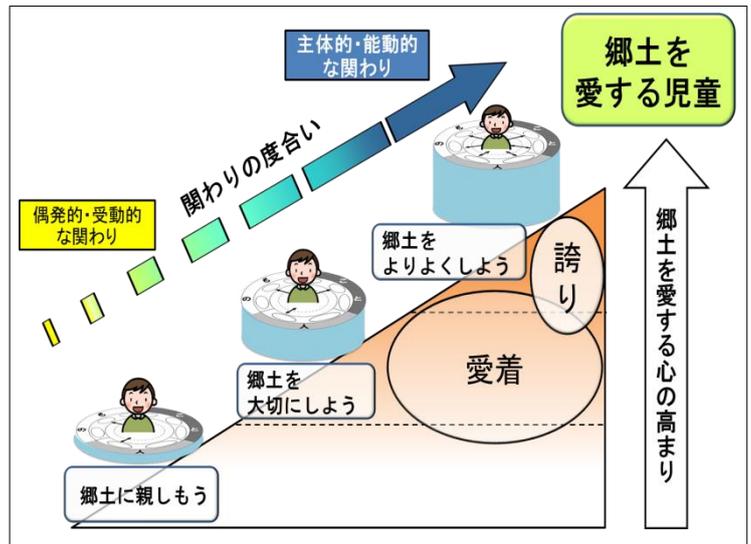
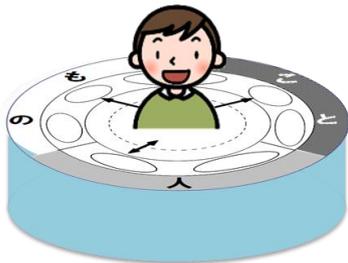
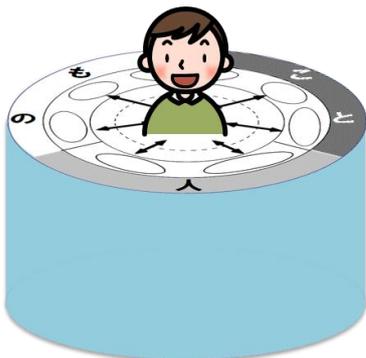


図2 郷土を愛する児童の段階

例えば、郷土を愛する児童の各段階における心情と行動は、表1のようなものが考えられる。このように、郷土を愛する児童の姿は、郷土を愛する心の状態とそれに伴う郷土に関わりをもつ行動との両面から総合的に捉えることが大切である。

表1 郷土を愛する児童の心情と行動の例

郷土を愛する児童の段階	心情(例)	行動(例)
親しもうとする段階 	<ul style="list-style-type: none"> 私の町の〇〇はいいな。 僕も、〇〇祭りに行ってみたいな。 私の地域には〇〇があるんだな。 地域の人から話を聞いて、地域のことが少し分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校の教育活動等を通して、偶発的・受動的に郷土の人・もの・ことに触れる。 ● 郷土の人・もの・ことについて、気付いたことを調べる。 ● 地域の人から郷土のことについて話を聞く。
大切にしようとする段階 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人に会いに行ってみよう。 地域の〇〇をまた見に行ってみよう。 僕にとって町の〇〇は、かけがえのないものだ。 地域の掃除活動に積極的に参加しよう。 地域の〇〇について調べてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分から積極的に郷土の人・もの・ことに触れる。 ● 郷土のものやことを何度も見に行く。 ● 郷土の人・もの・ことに愛着をもって接する。 ● 郷土を大切にするために、できることを考え、実行する。 ● 積極的に郷土の人・もの・ことについて調べる。
よりよくしようとする段階 	<ul style="list-style-type: none"> いつまでも〇〇なふるさどであってほしい。だから僕にできることをしたいな。 ふるさとを誇りに思う。 地域の人と協力して、ふるさとをよくしていきたい。 僕の町のよさをたくさんの人に教えたい。 私も、地域を発展させてきた人たちのように努力したい。 ふるさとの伝統工芸品をなくしたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校の教育活動のときだけでなく、休日にも主体的・能動的に郷土の人・もの・ことに関わる。 ● 郷土の一員としての誇りをもって、住民と協力して活動する。 ● 郷土のよさを伝える。 ● 郷土の先人や郷土の人たちの生き方を真似して行動する。 ● 郷土の伝統や文化を受け継ぐ。

(4) 「各教科等との関連を図る」とは

「各教科等との関連を図る」とは、道徳の時間と各教科等を有機的に関連付けることである(図3)。つまり、各教科等で学習したことを道徳の時間の中で補充、深化、統合するとともに、その後の各教科等での学習や体験活動において、道徳の時間に学んだことを生かすことである。

道徳の時間は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要の時間としての役割を担っている。道徳的価値「郷土愛」に関する学習においても、道徳の時間を要として、各教科等での学習と有機的に関連付けた道徳学習を意図的・計画的に展開していくことが大切である。

しかし、これまでの道徳学習は図4に示すように、各教科等と道徳の時間との関連を捉えていても、どのように関連付けるのか具体的な方法が見だしにくく、効果的な指導に至っていないかった。

そこで、郷土を愛する児童を育てるために、道徳の時間と関連付ける学習内容や方法を、根拠をもって判断・設定し、意図的・計画的に位置付けた道徳学習を行う必要がある。例えば、図5に示すように社会科や総合的な学習の時間において学んだ郷土の歴史、文化等との関連を図ることで、道徳の時間の中で郷土の文化を大切にしてきた先人の努力や心情を取り上げ、郷土のよさを実感させることができる。また、事後の総合的な学習の時間で行う郷土の文化を体験する活動において、道徳の時間に学習したことを生かすことで、それぞれの指導が相互に響き合い、郷土を愛する心の高まりとともに、郷土への主体的・能動的な関わりへと変容していくことができる。

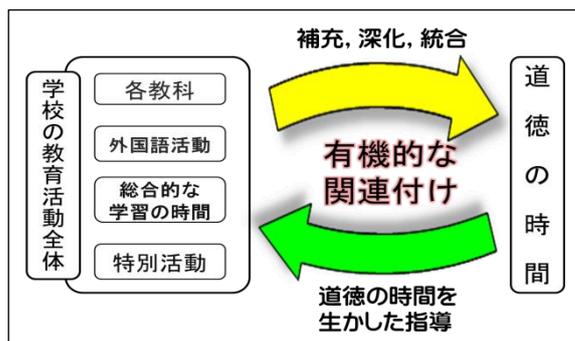


図3 各教科等との関連を図った道徳の時間

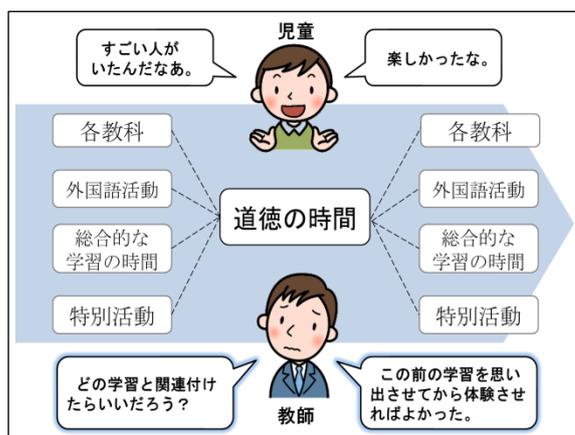


図4 これまでの道徳学習

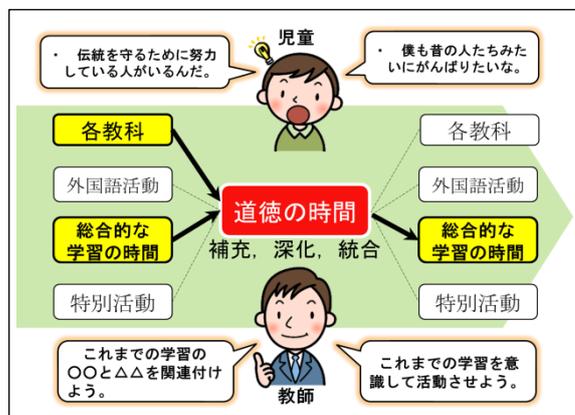


図5 各教科等との関連を図った道徳学習

2 郷土と道徳的価値「郷土愛」に関する実態調査の分析と考察

(1) 実態調査の概要

調査目的	児童の、始良市や住んでいる地域に対する「郷土愛」の意識や郷土に関する認識の実態を把握し、研究の基礎資料とする。		
実施期間	平成26年6月13日(金)～6月27日(金)		
調査対象	始良市立帖佐小学校 5年生(65人)	6年生(57人)	
	始良市立建昌小学校 5年生(128人)	6年生(155人)	
	始良市立三船小学校 5年生(18人)	6年生(19人)	
調査方法	質問紙法		

(2) 実態調査の結果と分析

ア 始良市に対する意識について

始良市に対する意識調査を行った結果、「始良市は、好きですか。」という質問に対し、「そう思う(70.7%)」、「少し思う(23.2%)」と回答した児童の合計は、93.9%という高い結果であった(表2)。

始良市が好きな理由を、図6にある項目から選択させた結果、本研究に関わる項目の上位は、「自然(11.7%)」であった。しかし、本研究に関わるその他の項目については、「地域の人との触れ合い(6.3%)」、「愛着(6.0%)」、「歴史、伝統、文化(5.0%)」、「催しや行事(3.4%)」であり、低い結果であった。

イ 郷土の「自然」、「伝統や文化」、「行事」に対する意識について

始良市の「自然」に対しての児童の意識調査では、「始良市の自然を眺めたり触れたりすると『いいな』と思う。」という質問に対し、「そう思う(56.2%)」、「少し思う(27.4%)」と回答した児童の合計は、83.6%であった。また、始良市の伝統や文化について、「始良市の伝統や文化に触れたり調べたりすると『いいな』と思う。」という質問に対し、「そう思う(39.1%)」、「少し思う(33.7%)」と回答した児童の合計は、72.8%であった。自然に対する意識と比べると伝統、文化に関する意識は、やや低いですが、そのよさを感じている児童は多い。しかし、「始良市の行事に進んで参加している。」という質問に対しては、「そう思う(25.6%)」、「少し思う(27.8%)」と回答した児童の合計は、53.4%であり、前述の2項目よりは、低い結果であった(図7)。

さらに、郷土の伝統工芸品や郷土の先人や郷土出身の活躍している人に対する意識調査では、知っていることを記述させた。その結果、誤答や無回答が「伝統工芸品(69.9%)」、「郷土の先人や活躍している人(65.6%)」であった(図8)。

(3) 実態調査の考察とまとめ

表2の結果から、ほとんどの児童が自分たちの住んでいる場所である始良市のことを好意的に思っていると考えられる。その理由について調査すると、小学校学習指導要領解説道徳編(以下、解説書という。)に示されている道徳的価値「郷土愛」に関わる項目「地域の人との関わり」、「愛着がある」、「歴史、伝統、文化」、「催しや行事」は、低い結果であり、児童の道徳的価値「郷土愛」に対する意識が低いのではないかと考えられた(図6)。しかし、図7の結果を見ると、

表2 始良市に対する意識調査

始良市は、好きですか。			
そう思う	少し思う	あまり思わない	全然思わない
70.7	23.2	4.3	1.8

93.9%

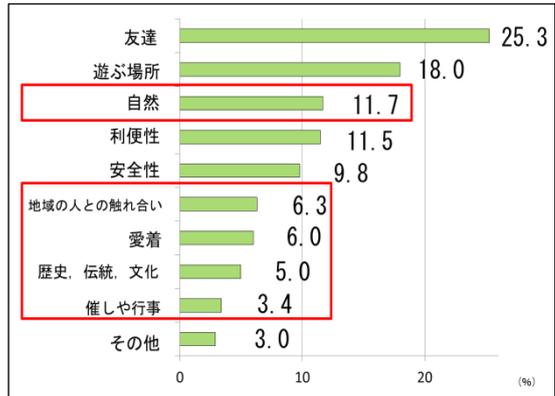


図6 郷土が好きな理由についての調査

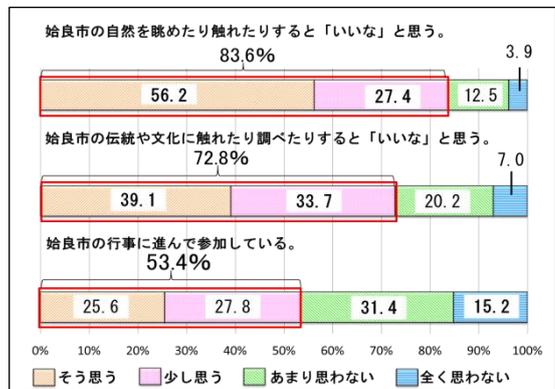


図7 郷土の「自然」、「伝統や文化」、「行事」に対する意識調査

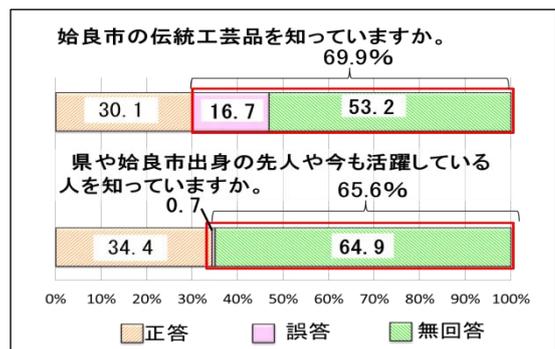


図8 郷土の伝統工芸品や、郷土の先人や郷土出身の活躍している人に対する意識調査

「自然」、「伝統や文化」、「催しや行事」に関する直接的な質問では、それらをよさとして捉えている児童は多い。図6と図7の結果から、児童にとっての郷土は身近な存在であるため、日常的にそのよさを意識していない傾向にあることが分かる。このことから、児童に郷土との関わりをもたせたり、郷土を意識させた上で郷土について自分との関わりで考えさせたりすることで、更に郷土のよさを感じる児童が増えるのではないかと考える。

また、図8の結果から、郷土の「伝統や文化」、「郷土の先人」、「郷土出身で現在活躍している人」についての知識・理解が不足していることも分かった。郷土に対して深く考えさせるためには、児童の発達の段階に応じた郷土に関する知識・理解が必要であることから、様々な教育活動の中で適時情報を提供したり、道徳の時間において関連付けたりしていくことが大切であると考え。そこで、児童に郷土を意識させ、そのよさを実感させたり、再認識させたりするために、各教科等との関連を図った道徳の時間を構想し、全教育活動を通して指導を行う必要がある。さらに、教師自身も意識的に郷土と関わることができれば、より効果的な学習指導につながると考える。

3 道徳的価値「郷土愛」の分析

(1) 道徳的価値「郷土愛」に関わる内容項目の系統性

解説書では、郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目が、各学年の発達の段階に応じて示されている。学校の教育活動全体を通して、郷土を愛する児童を育てるためには、教師が道徳的価値「郷土愛」に関わる内容項目の系統性と併せて重点とする指導内容を表3のように捉えておくことが大切である。なぜなら、郷土を愛する心は、児童一人一人が郷土との主体的・能動的な関わりに伴って徐々に育まれていくと考えるからである。例えば、高学年の段階で、郷土への愛着や親しみがあまりない児童に、郷土の伝統や文化について考えさせたとしても、自分との関わりで考えようとしないうえ、郷土を愛する心が高まらず、郷土に対して主体的・能動的な行為にまで至らない。郷土を愛する児童の段階(図2)で示したように、「郷土に親しもう」という心の状態が基盤となり「大切にしよう」、「よりよくしよう」という心の状態へと成長していくためには、重点とする指導内容を表3のように捉えることと併せて、児童の郷土に対する経験や知識・理解の状況等を確実に把握し、それらの実態も踏まえて指導することが大切である。

表3 道徳的価値「郷土愛」に関わる内容項目の系統性

	内容項目	重点とする指導内容
第1・2学年	4-(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	◎郷土の自然や文化、人の意識化
第3・4学年	4-(5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。	◎地域の行事や活動の意識化 ◎積極的に関わろうとする態度の育成
第5・6学年	4-(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	◎伝統や文化の継承、発展の責務の自覚化 ◎伝統や文化を継承、発展するために努めようとする心構えの育成

(2) 道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の要件

郷土を愛する児童を育てるためには、解説書の内容項目を意識し、学校の教育活動全体において指導しなければならない。その中でも、要となる道徳の時間を充実させ、郷土を愛する心を育む必要がある。道徳の時間においては、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深め、道徳的実践

力を育成しなければならない。文部省「小学校 郷土を愛する心を育てる指導^{*1)}」では、「道徳の時間では、道徳的実践力を育てることがねらいである。つまり、児童一人一人が郷土を愛することの意義を理解し、感じ取り、現在及び将来に出会う様々な状況において、主体的に郷土を愛することができるような内面的な資質を育てる。」とある。したがって、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めるためには、道徳の時間において、郷土を愛する意義を理解及び感得させることと、主体的に郷土を愛する態度を育むことが必要である。そこで表3に示す道徳的価値「郷土愛」に関わる内容項目の系統性を踏まえた指導と併せて、次の点を重視すべきであると考え。まず、郷土の伝統、文化、自然等が過去から現在、そして未来へ継承されていることに気付かせる必要がある。次に、郷土とそれに携わる人々との関わりに気付かせ、自分のこととして受け止めさせる必要がある。そして、これまで郷土の伝統、文化、自然等を発展させてきた郷土の先人や地域の人々の想いや願い、生き方に気付かせる必要がある。そこで、以上の重視すべき点と文献による研究や副読本の読み物資料等の分析から、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めるための指導の要件（以下「指導の要件」という。）を次のように設定した(表4)。

表4 道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めるための指導の要件

要件	内容
連続性	・ 郷土の伝統、文化、自然等は、継承、発展しながら未来へ連続していることや、自分もそのつながりの中にいることに気付かせる。
関連性	・ 郷土の伝統、文化、自然等は、それに携わる人々の関わりによって保全、発展してきたことやその人々の中に自分も含まれていることに気付かせる。
精神性	・ 郷土の伝統、文化、自然等に対する郷土の先人の想いや願い、生き方について深く考えさせる。

道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めるためには、児童の実態や扱う資料の特性、発達段階を考慮し、どの指導の要件を重点化するのかを明確にする必要がある。そうすることで、児童が学んだことを自分との関わりで考え、親しみや愛着、誇りをもったり、継承、発展させることへの責務を自覚したりすると考える。

4 各教科等との関連を図った道徳の時間の工夫

(1) 各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の手順

これまで、郷土を愛する児童の段階や郷土の構成要素、各教科等との関連を図った道徳学習、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の要件を明らかにしてきた。次に、児童が郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する心を育むための授業の構想の手順を明らかにする必要がある。そこで、各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の手順を図9のように作成した。この手順に従って、具体的な構想のモデルを、第6学年の読み物資料「白神山地」（『道徳6 明日をめざして』東京書籍）を例として示したものが、図10(pp. 8-9)である。

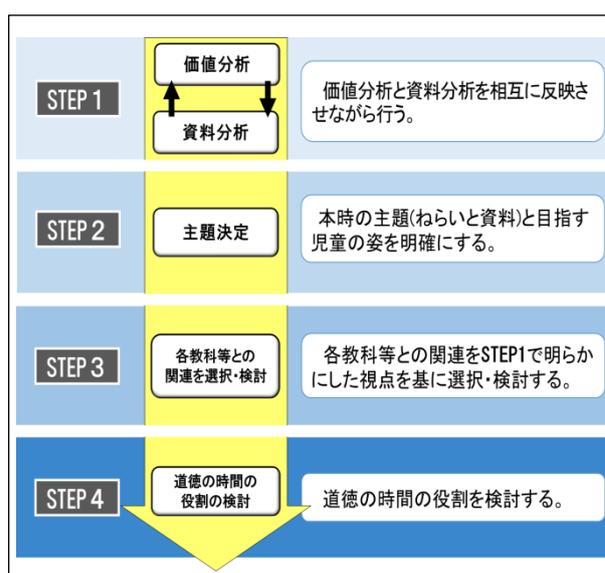


図9 各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の手順

*1)文部省「小学校 郷土を愛する心を育てる指導」昭和62年

第6学年読み物資料「白神山地」(『道徳6 明日をめざして』東京書籍)を例に

内容項目	4-(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心を育てる。		実施時期	9月
主題名	郷土を愛する	資料名	白神山地	
ねらい	郷土の文化や伝統を育てた先人の努力を知り、郷土のよさを大切にして郷土を愛する心情を育てる。			

STEP 1 価値分析と資料分析を相互に反映させながら行う。

価値分析は、解説書の内容項目の系統性と郷土を愛する児童の段階を基に行う。そして、児童の実態、これまでの学習経験などを考慮し、本時で目指す児童の姿を明らかにする。資料分析を行うときは、郷土の構成要素、指導の要件に留意しながら分析を行う。資料中に表れている構成要素は何か、どの指導の要件を重点化するかを検討する。その際は、参考資料として、郷土の構成要素の具体例(表5)と郷土のよさの具体例(表6)を活用し、○印を付けながら、分析した結果を確認する。また、価値分析と資料分析は、相互に反映させながら進めるようにする。

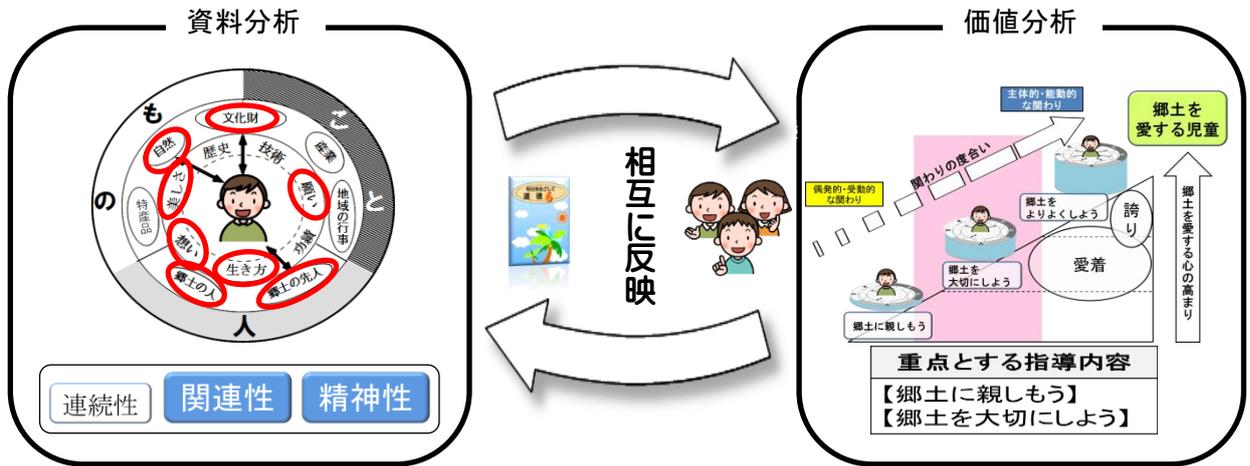


表5 郷土の構成要素の具体例

構成要素の具体例		○	
人	郷土の人	家族, 学校の人, 地域の人 郷土出身の人 など	○
	郷土の先人	地域の発展に尽くした先人 国家, 社会の発展に尽くした先人 など	○
もの	動植物	動物, 植物 など	○
	景観	山, 川, 植物等の自然景観 棚田, 用水路等の文化景観 など	○
	施設	公共施設, 商店街, 建築物 など	
	工芸品	陶器, 玩具, 木工品, 仏具, 衣服 など	
	特産物	野菜, 果物, 郷土料理 など	
こと	言葉	方言, 地域の言葉や訛り など	
	民話	昔話, 神話, 伝説 など	
	伝統行事	地域の伝統行事, 季節の行事 など	
	伝統芸能	和歌, 俳諧, 踊り, 音楽, 工芸技術 など	
	産業	農業, 林業, 工業 など	

表6 郷土のよさの具体例

郷土のよさの具体例		○
生き方	協力, 努力, 創意工夫 不撓不屈 など	○
思い・願い	豊かな暮らし, 安全な暮らし 心身の健康, 健やかな成長 伝統や文化の発展, 継承 社会の発展 など	○
功績	農業の発展, 教育の発展 文化の発展, 産業の発展 など	
技術	作り方, 踊り方 歌い方, 演奏法 など	
歴史	起源, 伝統や文化の経緯 など	
美しさ	風景の美しさ, 形や色の美しさ 歌や曲の美しさ, 踊りの美しさ 人の生き方の美しさ など	○

図10 各教科等との関連を図った道徳の時間の構想のモデル

STEP 2

本時の主題(ねらいと資料)と
目指す児童の姿を明確にする。

STEP 1 で分析したことを基に、主題名やねらいを明確にする。目指す児童の姿として、本時の学習で期待される道徳的心情と日常生活で期待される行動の両面を明らかにする。

明確化

主題名	郷土の自然を大切にする		
ねらい	郷土の自然のよさを見直し、それらを大切にしてきた人々の努力や工夫、自然に対する想いを知り、「郷土を大切にしよう」、「郷土をよりよくしよう」とする心情を育てる。		
目指す児童の姿		心情面	行動面
	郷土に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> 僕の町には、素晴らしい自然があるな。今度、見に行きたいな。 自然を守るために頑張っている人がいるんだな。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 偶発的・受動的に郷土の自然やそれを守っている人に触れる。 見た自然について話したり文章を書いたりする。 など
	郷土を大切にしよう	<ul style="list-style-type: none"> また、〇〇を見に行きたいな。 私の町の〇〇を大切にするために掃除をしたいな。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に郷土の自然やそれを守っている人に触れる。 郷土の自然を守るためにできることを考え、実行する。 など

STEP 3

各教科等との関連をSTEP 1
で明らかにした視点を基に選択・検討する。

STEP 1 で明らかにした郷土の構成要素を視点に、関連のある各教科等を選択する。本時と関連を図るものを検討する際に学習内容や教材、指導の要件、学習時期などを総合的に考え、道徳学習の計画を立てる。

関連を図る

各教科等	単元名・教材名	時期	人		もの		備考	指導の要件
			地域の人	生き方	歴史	自然		
理科	地球と生き物と暮らし	4月	◎	○		○	人の暮らしと環境との関わり	関連性
理科	生き物の暮らしと環境	7月		○			生き物どうしの関わり	関連性
理科	人と環境	3月	◎	◎			自然のことを考えた生き方	関連性 精神性
国語科	生き物はつながりの中に	5月	○	○			生き物の時間的なつながり	連続性
国語科	森へ	12月			○	◎	自然の美しさ 畏敬の念	連続性 関連性
国語科	海の命	3月	○				自然との共存	関連性
家庭科	わたしたちの生活と環境	3月	◎				環境によい生活の仕方	関連性

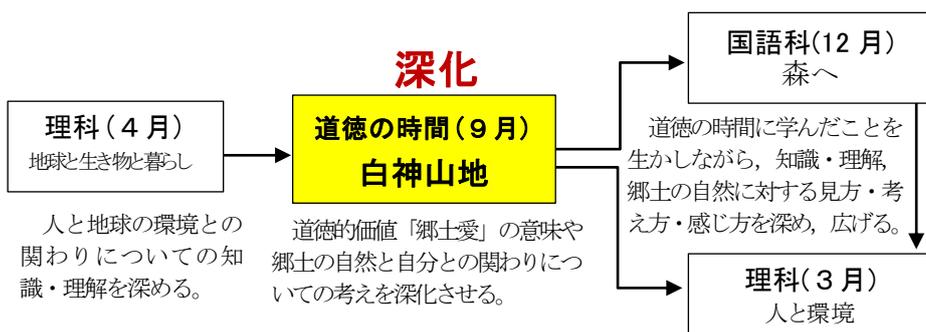
地域や鹿児島県の特徴

- ・ 蒲生の大クス(天然記念物)
- ・ 始良市の読み物資料
- ・ 重富海岸の干潟
- ・ NPO法人くすの木自然館
- ・ 龍門滝(日本の滝百選)
- ・ 屋久島(世界遺産)など

◎ 関連がある ○ やや関連がある ■ は、関連を図る教科等

STEP 4

道徳の時間の役割を検討する。



深化

道徳の時間(9月)
白神山地

人と地球の環境との関わりについての知識・理解を深める。

道徳的価値「郷土愛」の意味や郷土の自然と自分との関わりについての考えを深化させる。

道徳の時間に学んだことを生かしながら、知識・理解、郷土の自然に対する見方・考え方・感じ方を深め、広げる。

理科(3月)
人と環境

各教科等との関連を図った道徳の時間の役割を明確にする。要となる道徳の時間の役割が、補充、深化、統合のどれなのかを検討する。また、意図的・計画的な学習になるように、道徳の時間に深めた道徳的価値を各教科等の学習に生かすようにする。

(2) 各教科等との関連を図る工夫

道徳の時間が、一単位時間だけの指導で終始しては、道徳的実践力は育まれない。また、道徳的実践力と道徳的実践が相互に響き合わなければ、有機的な関連とは言えない。従って、各教科等と道徳の時間が意図的・計画的に展開し、児童の意識や学びを継続するための工夫が必要である。その際、重要なことは、児童がこれまでの学習を想起したり、これまでの学習で自分が感じたり考えたりしたことを振り返ったりすることである。そこで、これまでの学びを振り返らせるために、図 10 に示した構想の手順 STEP 3・4 によって、関連を図る教科等を設定し、授業の中で、想起させたり振り返らせたりする。

また、各教科等との関連を図った指導が、意図的・計画的に展開されていくために、道徳学習シート(写真 1)を活用する。道徳学習シートは、四つ切り画用紙に、郷土に関する学習を行う度に、友達の考え、ゲストティーチャー(以下、「GT」という。)の言葉等が書かれた用紙や学習で使った写真を貼りながら、道徳学習の足跡を残すものである。この学習シートの活用によって、これまでの学習を想起させたり、友達の多様な考えに触れさせたりすることが期待できる。



写真 1 道徳学習シート

5 道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫

(1) 指導の要件を踏まえた板書の工夫

児童が道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めるために板書を十分に生かしていきたい。そのためには、児童の考えを整理したり、順序よく配置したりするなど、板書の構造化を図らなければならない。そこで、本研究においては、指導の要件を踏まえた板書の構造化の基本的な考え方を明らかにし、道徳の時間や各教科等での板書の工夫を行うことにする(表 7)。

表 7 指導の要件を踏まえた板書の構造化の基本的な考え方

	板書のモデル図(例)	板書の際の留意点
連続性		資料中の「もの・こと」や、それに対する人々の想いや願いが、長い年月を通じて受け継がれてきていることに気付かせ、郷土のよさを継承、発展させることについての自覚化を図るために、板書を工夫する。その際、対象とする「もの・こと」に対する人々の想いや願いを時系列に表す中で、児童自身も継承、発展させる一人であることや、未来につなげなければいけないことにも気付かせるようにする。
関連性		資料中の「もの・こと」は、それに携わる郷土の多くの人々の関わりによって保全、発展してきたことに気付かせ、個人だけでなく集団や社会で関わることの大切さを考えさせるために、板書を工夫する。その際、対象とする「もの・こと」を中心に置き、その保全、発展に寄与した人々を周囲に配置する中で、児童自身も保全、発展に関わる一人であることにも気付かせるようにする。
精神性		資料中の登場人物が、葛藤しながらも心の弱さを乗り越え、望ましい生き方の実践を支える見方・考え方・感じ方を大切にしたい心情に変化したことに気付かせ、郷土を愛することの意義や心構えについて考えさせるために板書を工夫する。その際、登場人物の心情が変容した要因が、郷土に対する想いや願い、生き方が大きく関わっていることにも気付かせるようにする。

(2) 道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める発問の工夫

教師による発問は、児童の思考や話し合いを深めるために重要である。それは、明確な目的のある発問によって、児童の考えを意図的に深めたり広げたりすることにつながるからである。しかし、主人公の気持ちを問う発問ばかりでは、児童の問題意識や疑問は生まれにくく、本時の主題に迫ることも難しくなると考える。児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問などを心掛けなければならない。そこで、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めるために、学習過程の中で表8のような発問を位置付けることにする。

表8 道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める発問の種類

過程	発問の種類	留意点
導入 (気付く)	郷土を意識させる発問	○ 児童に郷土の「人・もの・こと」を意識させ、考えていきたい問題を焦点化させる発問によって、郷土の意識化を図る際に、他の地域や他者との比較を通して、自分自身が考えるべき課題を意識させる。 (発問例) ◆ ○○のいいところは見付けたけど、自分のふるさとは同じようなものはないのかな。 ◆ ○○をしている人とあなたの思っていることや考えていることは、同じなのだろうか。
展開前段 (捉える) 展開後段 (深める)	指導の要件を踏まえた発問	○ 指導の要件「連続性」、「関連性」、「精神性」を踏まえた発問によって、郷土を愛することの意義やそのために必要な心構えに気付かせる。その際、指導の要件を踏まえた板書と発問を効果的に生かしていく。 (発問例) ◆ これまで続いてきた伝統や文化は、どうあればいいのだろうか(「連続性」を踏まえた発問)。 ◆ あなた(私たち)にとって、ふるさとの○○とは何だろうか(「関連性」を踏まえた発問)。 ◆ 郷土の先人は、どんな考えを大切にしたのでだろうか(「精神性」を踏まえた発問)。
終末 (あたためる)	自己との関わりで道徳的価値「郷土愛」を捉えさせる発問	○ 道徳的価値「郷土愛」について、学んだことを自分のこととして捉えさせる発問によって、これからの生活に生かしていきたい願いをもたせる。 (発問例) ◆ 今日、学習したことから、あなたはどんなことを感じましたか。

(3) 郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫

郷土のよさに対して、児童が実感を伴いながら郷土についての見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために、各過程において、視覚的情報や聴覚的情報を効果的に活用し、郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫を行うことにする(表9)。

表9 郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫例

学習指導の工夫例	期待される指導の効果
写真、映像、BGM等の活用	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の「人・もの・こと」についての知識・理解を深める。 資料中の登場人物の心情により共感させる。 郷土の風景や祭りばやしの音などの美しさを直に感じ取らせる。
G Tの活用	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の読み物資料についての知識・理解を深める 郷土の人の想いや願い、生き方について知る。 多様な見方・考え方・感じ方に触れさせる。

6 検証授業の実際と考察

検証授業を行うに当たって、実態調査の考察や基礎研究を踏まえて【視点1】「各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の在り方」と【視点2】「道徳的価値の自覚を深める指導の工夫」を検証の視点として設定する。各視点の具体的な内容を明確にし、検証授業Ⅰ・Ⅱにおいて、主に検証する視点を決定する(表10)。まず、検証授業Ⅰでは、視点1ーア、視点2ーイ、視点2ーウに沿って、主に道徳的価値の自覚を深める指導の工夫について検証する。次に、検証授業Ⅰの成果と課題を踏まえ、改善点を明らかにする。そして、検証授業Ⅰの改善点を生かし、検証授業Ⅱでは、視点1ーイ、視点2ーアに沿って、主に各教科等との関連を図った道徳学習を構想し、有機的に関連付けた道徳の時間の在り方について検証する。

表10 視点の内容と検証授業Ⅰ・Ⅱで主に検証する視点

視点の内容			検証授業		
			Ⅰ	Ⅱ	
視点1	各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の在り方	ア	本時の主題と目指す児童の姿の具体化	●	○
		イ	各教科等との関連を図る工夫		●
視点2	道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫	ア	指導の要件を踏まえた板書の工夫		●
		イ	道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める発問の工夫	●	○
		ウ	郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫	●	○

●重点 ○継続, 改善

(1) 検証授業Ⅰの実際と考察【平成26年7月11日(金), 始良市立帖佐小学校 第5学年】

ア 検証授業Ⅰのねらい

(ア) 郷土の構成要素や郷土を愛する児童の段階を活用し、本時の主題と目指す児童の姿の具体化について検証する。【視点1ーア】
(イ) 児童に問題意識をもたせる発問や指導の要件を踏まえた発問の工夫について検証する。【視点2ーイ】
(ウ) 登場人物の心情により共感したり、郷土のよさを感じさせたりするなど、郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫について検証する。【視点2ーウ】

イ 検証授業Ⅰで扱う読み物資料の概要

資料名	わたしの心のアルプス(一部改作)	出典	『みんなのどうとく5年』学研教育みらい
概要	少年の頃の椋鳩十が、恩師である市瀬先生から進められた本である「アルプスの少女ハイジ」を読む。そして、物語の風景描写やハイジのおじいさんの言葉に感銘を受け、改めて見た自分の故郷の景色の美しさに感動する。		

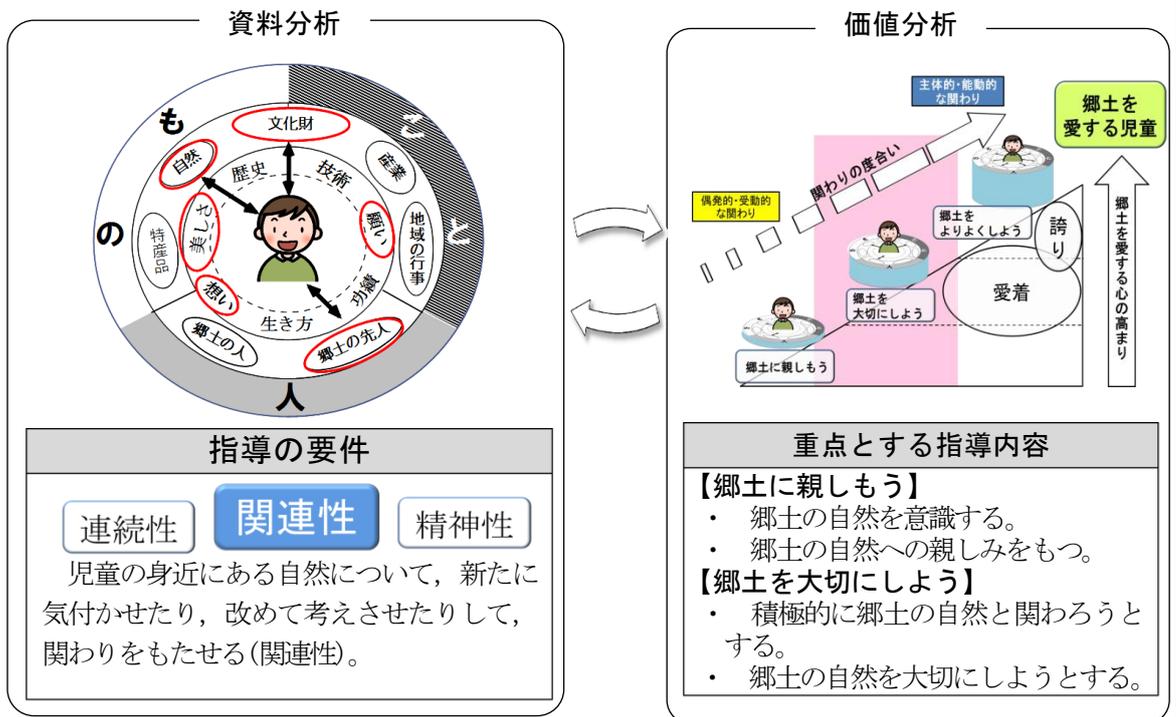
ウ 検証授業Ⅰの構想と実際

(ア) 検証授業Ⅰの構想

本時の主題と目指す児童の姿を具体化するために、図11のように価値分析と資料分析を行った【視点1ーア】。検証授業Ⅰで活用する資料は、主人公の葛藤場面が表れにくい資料である。しかし、ふるさとの景色を見て感動する心情に十分共感させることにより、郷土の自然との関わり方について考えることのできる資料である。そこで、主人公の心の弱さを共感させるのではなく、感動した気持ちに十分共感させたい。

STEP 1

価値分析と資料分析を相互に反映させながら行う。



STEP 2

本時の主題(ねらいと資料)と目指す児童の姿を明確にする。

主題名	ふるさとの自然		
ねらい	郷土の自然の美しさや素晴らしさを新たに発見したり、見直したりして、郷土の自然に進んで親しもうとする心情、自然を大切にしようとする心情を高める。		
目指す児童の姿		心情面	行動面
	郷土に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> 僕の町の重富海岸は、国立公園に指定されてすごいな。 私の町には、素敵な場所があるんだな。 白銀坂は、ずっと昔からある古い道なんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動の中で、偶発的・受動的に郷土の自然に触れる。 新たに知った町のよさについて、調べる。 おうちの人に始良の自然のことに話聞く。
	郷土を大切にしよう	<ul style="list-style-type: none"> 始良市のきれいな風景を見付けに行きたい。 始良市の自然を大切にしていきたいな。 また、蒲生の大クスを見に行きたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで、町の風景を見たり、美しい場所を探したりする。 始良市の自然を保全するために、自分にできることを考え、実行する。 自分が好きな始良市の名所にまた行ってみる。

図 11 検証授業 I の主題と目指す児童の姿

(イ) 検証授業 I の実際

過程	主な学習活動	教師の働き掛け (T) 児童の反応 (C)
気付く	<p>1 自分の郷土の自然について知っていることや経験したことを発表し、考えていきたい問題について考える。</p>	<p>(日本アルプスの写真の提示)</p> <p>【視点2-1】①</p>  <p>日本アルプスのいいところは見付けたけど、始良の自然の中にもいいところはあるのだろうか(発問A)。</p> <p>C: ふるさとの自然はたくさんあるのだろうか。 C: ふるさとの自然のいいところを見付けよう。</p> <p style="text-align: center;">自分のふるさとの自然には、どんなよさがあるだろう。</p>
捉える	<p>2 資料「わたしの心の中のアルプス」を読んで、郷土の自然のよさや、「郷土愛」に関わる生き方について話し合う。</p> <p>(1) 資料「わたしの心の中のアルプス」の範読を聞く。</p> <p>(2) 主人公の椋鳩十の心情や心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を焦点化する。</p> <p>(3) 椋鳩十がハイジの物語の中の風景を想像したときの気持ちや、自分のふるさとの山々の夕焼けを見たときの気持ちや気付いたことについて話し合う。</p>  <p style="text-align: center;">写真2 動作化の様子 (ワークシート記入→ペア学習→全体学習)</p>	<p>T: 椋鳩十さんが、ハイジを読み終わって、ふと顔を上げると、ふるさとの山々が赤く染まっていました。椋さんは、どんな気持ちだったか、やってみましょう(動作化)。</p> <p>【視点2-ウ】①</p> <p>T: 目を閉じて想像しながら、手で本を作って読んでごらん(写真2)。目を上げてごらん。目を開けていいですよ(BGMと写真の活用)。</p> <p>C: うわあ、すごい。</p> <p>T: 椋さんが、(ああ、すばらしいな。)と心の中で思ったとき、どんな言葉をつぶやいただろう。(略)</p> <p>T: 考えたことを発表しましょう。</p> <p>C: 自分のふるさともこんなきれいで美しい景色が広がっているところがあるんだな。</p> <p>C: こんな素晴らしい景色があるんだ。ふるさとしていいな。</p> <p>C: この夕焼けの景色を、みんなにも見せたいな。</p>
深める	<p>3 学習したことを振り返り、ふるさとの自然に対してどんな気持ちや考えをもつことが大切か自分なりの考えをまとめる。</p>  <p style="text-align: center;">写真3 児童に提示した蒲生の大クスの写真</p>	<p>T: あなたたちにとってのふるさとは始良ですよ。ふるさとの自然のいいところは何でしょう。</p> <p>T: 例えば、これは知っていますか。(写真3の提示)</p> <p>C: 蒲生の大クスだ。</p> <p>T: 蒲生の大クスについて、何か知っている人はいませんか。</p> <p>C: たしか、世界一、いや日本一だったような。</p> <p>C: 高さは10mかな。</p> <p>T: 30mもありますよ。</p> <p>C: ええ。</p> <p>(その後、児童の発言に応じて龍門滝、白銀坂などの写真を提示した。)</p> <p>【視点2-ウ】②</p> <p>C: おお、始良ってすごい。</p> <p>【視点2-1】②</p>  <p>みんなにとって、始良の自然とは何ですか(発問B)。</p>
あたためる	<p>4 教師の説話を聞く。</p> 	<p>T: これは、先生が見付けた何気ない風景です。</p> <p>C: わあ、きれい。</p> <p>T: 有名なところだけでなく、みんなの身の回りにも「きれいだな。」と思う風景があるかもしれない。</p>

【視点2ーイ】① 比較させ、問題意識をもたせる発問の工夫	考 察
<p>学習への興味、関心を高めるとともに切実な問題意識をもたせるために、日本アルプスの写真を提示した後、自分自身の郷土の自然の比較を促す発問をした(発問A)。</p> <div data-bbox="316 376 411 515"> </div> <div data-bbox="446 376 906 515"> <p>【問題意識をもたせる発問】 日本アルプスのいいところを見つけたけど、始良の自然の中にもいいところはあるのだろうか。</p> </div>	<p>日本アルプスの風景を提示したことで、考える対象を自然に焦点化し、さらに、郷土の自然と比較させることで、児童が郷土の自然のよさを意識したり、切実な問題意識をもったりした。</p>
【視点2ーイ】② 指導の要件「関連性」を踏まえた発問の工夫	考 察
<p>道徳的価値「郷土愛」について深く考え、新たな気づきを促すために、指導の要件「関連性」を踏まえた発問をした(発問B)。</p> <div data-bbox="316 667 411 806"> </div> <div data-bbox="446 667 906 806"> <p>【「関連性」を踏まえた発問】 みんなにとって、始良の自然とは何ですか。</p> </div>	<p>実態調査の結果では、郷土を好きな理由として「自然」は上位であったが、本時の学習から、新たに郷土の自然のことにについて知る児童が多かった。また、改めてそのよさを実感する児童もいた。</p>

【視点2ーウ】① 写真やBGMを活用して、実感を促す学習指導の工夫	考 察
<p>椋鳩十が自分のふるさとの山々を見て、感動しているときの気持ちに共感させるために、山々を見上げるしぐさを動作化させた。その際、児童により実感を伴って椋鳩十の心情に共感させるために、写真を提示した(写真4)。また、感動に浸らせるために、写真の雰囲気合ったBGMを流した。</p> <div data-bbox="568 1059 919 1290"> </div> <p style="text-align: center;">写真4 動作化の際に提示した写真</p>	<p>美しい夕焼けの風景に合うBGMを流すとともに、児童が見上げる動作をした際、夕焼けの写真が視野に入るようにしたことで、思わず声を上げる児童がいた。動作化の後、椋鳩十の気持ちをワークシートに記述させると、椋鳩十の感動した心情や郷土の自然に対する想いを書く児童が多く見られた。</p>

【視点2ーウ】② 郷土の自然の写真で実感を促す学習指導の工夫	
<p>始良市の自然を多面的に実感させるために、児童にこれまでの経験を想起させた。その際、児童の思考を校区内から始良市に広げるために、蒲生の大クスの写真を提示した。その後、始良市の自然について知っていることを発表させた。その際、児童が発言すると予想される自然の写真を移動黒板に掲示した。写真を活用し、実感を伴いながら郷土の自然について話し合わせた(写真5)。</p>	<div data-bbox="817 1435 1442 1765"> </div> <p style="text-align: center;">写真5 郷土の自然を掲示した移動黒板</p>
考 察	
<p>郷土の自然を想起させた際には、校区外の自然も含めて、多様に発言していた。児童の発言だけでは、他の児童にとって、伝わりにくいため、事前に準備していた写真を提示したり、児童の発言を補足する情報を提供したりすることで、郷土の自然のよさに対して共感的に受け止める児童の姿が見られた。</p>	

エ 検証授業Ⅰの考察(○成果 ▲課題)

【視点１－ア】本時の主題と目指す児童の姿の具体化

- 郷土の構成要素と指導の要件を基に資料分析を行ったことで、指導する内容を重点化することができた。
- 内容項目の系統性と郷土を愛する児童の段階を基に価値分析を行ったことで、目指す児童の姿を明確にもち、意図的な指名や個に応じた言葉掛けが行えた。
- ▲ 各教科等との関連の手立てが十分でなかった。検証授業Ⅱでは、各教科等との関連を図った道徳の時間を行ったり、道徳の時間で学んだことを各教科等に関連させる工夫を行ったりする必要がある。
- ▲ 郷土のよさを多面的に実感させるために、郷土の伝統や文化、それに関わる「人」についての授業を行う必要がある。

【視点２－イ】道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める発問の工夫

- 気付く過程において、他の地域の自然を提示した後に、自分の郷土の自然との違いを考えさせたことで、郷土の自然に対する問題意識をもたせることができた。
- 深める過程において、「関連性」を踏まえた発問をしたことで、郷土の自然に対して自分との関わりで考えさせることができた。
- ▲ 深める過程において、他者との交流を行う時間を設定していなかったため、十分に道徳的価値の自覚を深めることができなかった。道徳的価値「郷土愛」の自覚を更に深めるために、他者との交流活動を設定する必要がある。

【視点２－ウ】郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫

- 写真やBGMを活用した動作化の工夫や郷土の自然や風景の写真を生かすことで、登場人物の心情に共感させたり、郷土についての知識・理解を深めたりすることができた。
- ▲ 検証授業Ⅱにおいても郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫を継続し、児童に郷土のよさを多面的に実感させていく必要がある。

(2) 検証授業Ⅱの実際と考察

【平成26年10月28日(火)、30日(木)、11月4日(火) 始良市立帖佐小学校 第5学年】

検証授業Ⅱでは、各教科等との関連の工夫【視点１－イ】、指導の要件を踏まえた板書の工夫【視点２－ア】を主な視点として検証する。また、検証授業Ⅰの課題から、深める過程における他者との交流、郷土のよさの実感を促す学習活動の工夫について、継続、改善を図っていく。さらに、郷土のよさを多面的に実感させるために、検証授業Ⅱでは、郷土の「もの・こと」を対象としながら、郷土の人や先人の生き方、想い、願いについて考えさせていきたい。そこで、郷土の素材を題材とした資料を活用する。検証授業Ⅱでは、郷土の「もの」を対象とした授業(以下、検証授業Ⅱ－①)と郷土の「こと」を対象とした授業(以下、検証授業Ⅱ－②)を行う。また、検証授業Ⅱでは、地域の素材やG Tを生かした学習を計画した。

ア 検証授業Ⅱのねらい

- | |
|---|
| <p>(ア) 各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の手順や方法、各教科等と道徳の時間とを関連させる工夫について検証する。【視点１－イ】</p> <p>(イ) 指導の要件を踏まえた板書の工夫について検証する。【視点２－ア】</p> <p>(ウ) 検証授業Ⅰの課題である深める過程での他者との交流活動について改善し、発問や板書の工夫、郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫を継続して行っていく。</p> <p>【視点１－ア】【視点２－イ】【視点２－ウ】</p> |
|---|

イ G Tを活用する際の留意点

検証授業Ⅱでは地域社会との連携を図り、G Tを活用した。G Tの活用は、地域社会と連携した道徳教育を推進できる。また、児童がG Tとの関わりを通して、学級の仲間や教師だけでなく、様々な人の生き方や考え、想いなどに触れることで、道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深めることが期待できる。そこで、効果的にG Tを活用し、道徳の時間のねらいを達成するために、表 11 のような手順を踏まえてG Tを活用する。

表 11 G T活用の際の手順と留意点

	手 順	内 容	留 意 点
事前	① 担任とG Tで打合せを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任が、道徳の時間のねらいと学習の展開についてG Tに説明をし、趣旨を理解してもらう。 G Tの役割を説明する。 G Tの想いや願いを聞く。 打ち合わせて話し合ったことを踏まえて、G Tの活用方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の日時については、一方的なお願にならないように十分連絡調整する。 G Tの想いや願いを十分に聞き、G Tにお願したい内容を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 何をするのか。 何を話すのか。 どのくらい話すのか。 など
授業	② G Tを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> G Tの活用方法に応じて、児童とG Tの交流を図る。 G Tは、学校に招聘して直接的に活用する方法やビデオレターや手紙などの間接的に活用する方法を、各学校や地域の実態に応じて計画する。 	【活用方法の例】 <ul style="list-style-type: none"> * 導入において、児童の主題に対する興味・関心を高めるために活用する。 * 展開において、資料の補足説明や主題に対するG Tの考えを話してもらう。 * 終末において、説話をしてもらう。また、本時の児童が学んだことについて称賛してもらう。
事後	③ 授業の反省を行う。 ④ 次年度への改善について考える。	<ul style="list-style-type: none"> G Tへお礼の挨拶をする。 G T活用の効果について振り返り、今後の事後指導や次年度への活用について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> G Tへ、お礼の挨拶と授業後の児童の感想や変容などを伝える。 次年度の指導計画のために、活用した成果と改善点を記録する。

ウ 読み物資料の概要

(ア) 検証授業Ⅱ－①で扱う読み物資料

資料名	よみがえった日本の仏像	出典	『みんなのどうとく5年鹿児島県版』学研教育みらい
概要	鹿児島市出身の新納忠ノ介が、美術学校の校長から仏像の修復を頼まれ、壊れた仏像を修復するために奈良に行く。仏像を作った人や大切にしてきた人のために何とか直したいと努力するが、なかなか思うようにいかない。しかし、諦めずに何度も試行錯誤を繰り返し、努力した結果、見事仏像の修復に成功した。その後も、仏像の修復に貢献する。		

(イ) 検証授業Ⅱ－②で扱う読み物資料

資料名	大クスとともに	出典	『始良市 心をつなぐ物語第1号』
概要	主人公の大貴は、一時間以上も踊り続けてへとへとになるが、大クスから吹く風を受け不思議な気持ちになる。昼食のとき、大貴のじいさまから、大クスが台風で危機に瀕したときの話を聞く。大クスを守るために懸命に頑張った人々のことを知り、大貴は再び太鼓踊りを踊り出す。 (※本資料は、始良市モリティ・イブルグメント推進事業の一環として、始良市が作成したものである。)		

エ 検証授業Ⅱ－①の構想と実際

(ア) 検証授業Ⅱ－①の構想

各教科等との関連を図るために、図 9 の手順に沿って、価値分析と資料分析を行った(図 12)。また、各教科等との関連を分析し、道徳の時間の役割を明確にした(図 13)。検証授業Ⅱ－①で活用する資料は、郷土の先人である新納忠ノ介(鹿児島市出身)の資料である。昔から大切にされてきた伝統工芸品である仏像に対する忠ノ介の想いや願い、生き方に十

分共感させたい。また、総合的な学習の時間との関連を図り、郷土の伝統工芸品である帖佐人形やそれを作っている人の想いや願い、生き方に触れさせることを通して、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めていきたい【視点1-イ】。

STEP 1 価値分析と資料分析を相互に反映させながら行う。

資料分析

指導の要件

連続性
関連性
精神性

郷土の先人や郷土の人が大切にしてきた伝統、文化について、改めて考えさせ、それらを守ったり、継承したりする人々の生き方に触れさせる(精神性)。また、昔から現代までに引き継がれてきたことについて考えさせる(連続性)。

価値分析

重点とする指導内容

【郷土を大切にしよう】

- 郷土の人々や文化、伝統に親しみ、それを大事にする。
- 郷土の伝統工芸品に積極的に関わろうとする。

【郷土をよりよくしよう】

- 郷土の先人や郷土の人の努力を知る。
- 郷土の伝統や文化の継承、発展の責務を自覚する。

STEP 2 本時の主題(ねらいと資料)と目指す児童の姿を明確にする。

主題名	守り、継承されてきた郷土の伝統と文化		
ねらい	郷土の伝統や文化を大切にしてきた郷土の先人や郷土の人の生き方から、郷土を大切にしたり、継承、発展させたりしていくことの意義やそのために必要な心構えに気付かせる。さらに、古くから伝わってきたもののよさや素晴らしさを実感し、郷土を愛する心を高める。		
目指す児童の姿	心情面	行動面	
	郷土を大切にしよう	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の伝統工芸品について知りたいな。 郷土の先人または、郷土の人の生き方を自分もまねをしたい。 郷土の先人たちが大切にしてきたものを私も大切にしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に郷土の伝統工芸品について調べたり、それを大切にしている人に聞いたりしている。 郷土の先人または、郷土の人が大切にしている考えを、自分の生活に生かしている。 郷土の伝統や文化を大切にするために自分にできることを考え、実行する。
郷土をよりよくしよう	<ul style="list-style-type: none"> いつまでも、郷土の伝統工芸品が残ってほしいから、自分にできることを考えていきたい。 私の町の伝統や文化を、知らない人に教えたいな。 昔の人たちが大切にしてきた工芸品を、絶やしたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動のときだけでなく、休日にも、主体的・能動的に伝統や文化に触れている。 郷土の伝統や文化を、積極的に伝えている。 伝統工芸品やそれを大切にしてきた人々の想いを受け継ぐ。 	

図 12 検証授業Ⅱ—①の主題と目指す児童の姿

STEP 3

各教科等との関連をSTEP 1 で明らかにした視点を基に選択・検討する。

教科等	単元名・教材名	時期	人				もの		備考	指導の要件
			郷土の人		郷土の先人		工芸品			
			生き方	想い・願い	生き方	想い・願い	歴史	技術		
社会	わたしたちのまち はどんなまち	4月	○						農業に携わる人々の 想い	精神性
社会	昔から今へと続く まちづくり	第4学年		◎					先人の功績 先人の願い、想い	精神性
国語	百年後のふるさと を守る	6月	◎	◎					先人の生き方、想 いや願い、功績	連続性 精神性
国語	千年の釘いどむ	12月	◎	◎				◎	伝統の継続 文化財 を守ることへの想い	連続性 精神性
総合	わたしたち 帖佐歴史探検隊	第3学年						○ ◎	郷土に関する知識・ 理解、体験活動	関連性
総合	郷土の伝統工芸品 について調べよう	1月	◎	◎	○	○	○	○	伝統を継承する体 験活動	連続性 関連性 精神性

地域や鹿児島県の特徴

・ 帖佐人形 ・ 蒲生和紙 ・ 龍門司焼 ・ 薩摩切子 ・ 川辺仏壇 ・ 大島紬

◎ 関連がある ○ やや関連がある ◻ は、関連を図る教科等

STEP 4

道徳の時間の役割を検討する。

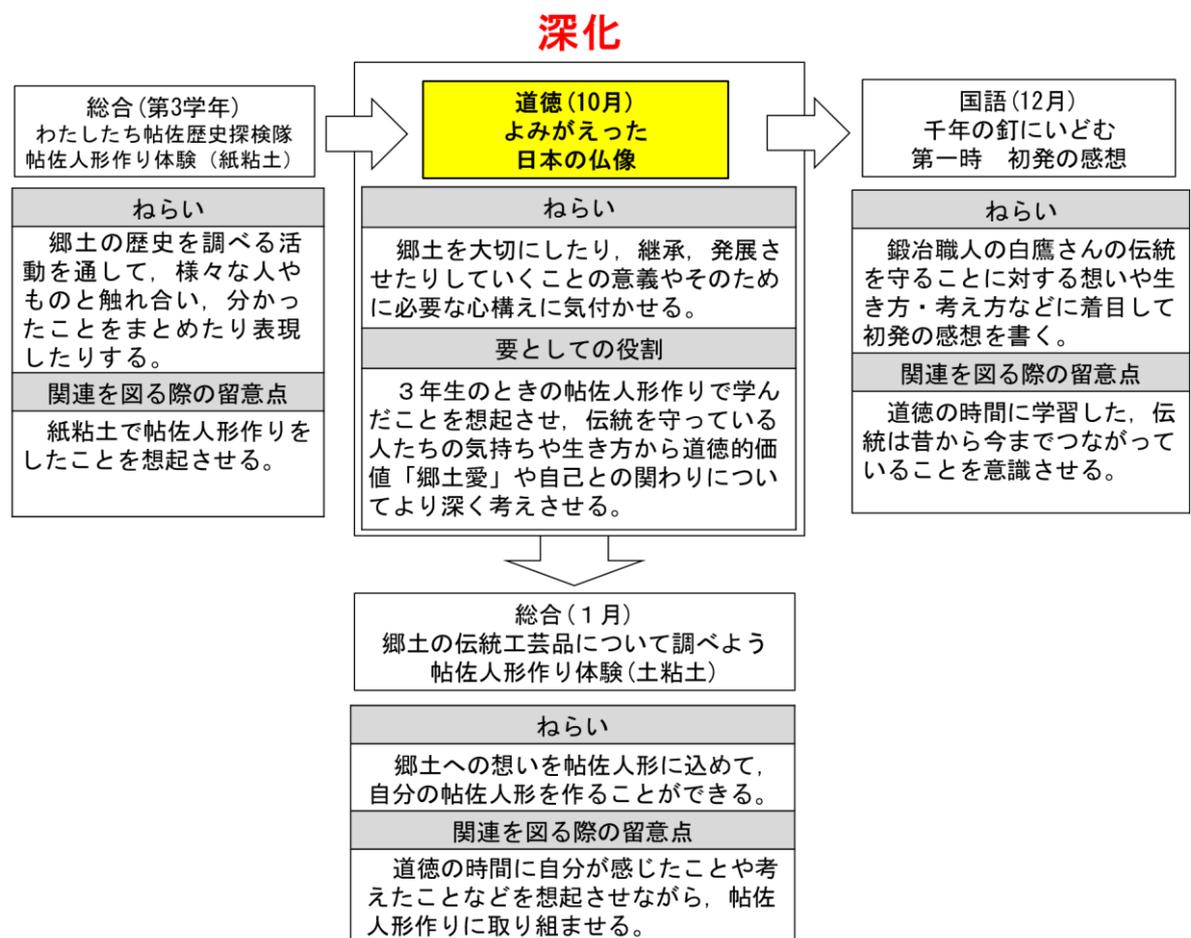


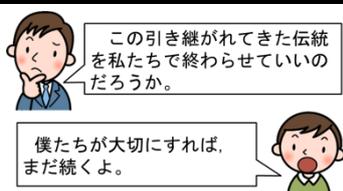
図 13 各教科等の関連を図った道徳の時間の構想(検証授業Ⅱ-①)

(イ) 検証授業Ⅱ－①の実際

過程	主な学習活動	教師の働き掛け (T) 児童の反応 (C)
気付く	<p>1 自分の郷土の伝統や文化について知っていることや経験したことを発表し、考えていきたい問題について考える。</p>  <p style="text-align: center;">ふるさとの伝統や文化を大切にするには、どんな気持ちをもてばいいのだろう。</p>	<p>【視点1-イ】① 3年生で体験した帖佐人形作りを想起させ、そのときに思ったことについて発表させる。 C：楽しかったな。 C：作るのが難しかったよ。</p> <p>T：折田さんもみんなと同じような気持ちで人形を作っているのだろうか。</p>
捉える	<p>2 資料「よみがえった日本の仏像」を読んで、道徳的価値「郷土愛」に関わる生き方について話し合う。</p> <p>(1) 資料「よみがえった日本の仏像」の範読CDを聞く。</p> <p>(2) 鼻や耳をなくした仏像を見たときの忠ノ介の気持ちを考える。</p> <p>(3) 仏像の修理がなかなか思うように進まなかった忠ノ介の心情を考える。</p>  <p>(4) 忠ノ介が一体の仏像をよみがえらせたときの気持ちについて考えワークシートに記入し、全体で話し合う。</p>	<p>T：忠ノ介は心の中でどんなことをつぶやいていただろう。 C：どうすればいいのかな。 C：東京に帰りたい。 C：きれいに作りたいけど、うまくできない。 T：弱いつぶやきだけではないんだね。強いつぶやきを考えた人はいますか。 C：絶対に直すぞ。 C：日本の伝統を絶対に守るんだという気持ち</p> <p>【視点2-ア】① (板書の構造化を図り、忠ノ介の心の弱さと実践を支える見方・考え方・感じ方を対比的に捉えやすくする。)</p> <p>T：仏像をよみがえらせたとき、忠ノ介はどんなことを思っていたらう(ワークシート)。</p> <p>T：忠ノ介は、作った人たちのことを考えていたんだね。作った人から大切にされた人へ、大切にされた人から忠ノ介に引き継がれているね。</p> <p>【視点2-ア】② (板書の構造化を図り、伝統を継承してきた人々を矢印でつなぎ、連続していることを捉えやすくする。)</p> <p>T：作った人や大切にされた人、忠ノ介が残してくれた仏像を、今、誰が見ていますか。 C：私たち</p> <p>【視点2-イ】</p>  <p>この引き継がれてきた伝統を私たちが終わらせていいのだろうか。 C：僕たちが大切にすれば、まだ続く。 C：僕たちの子供にも。 C：未来へ。</p>
深める	<p>3 帖佐人形作家のメッセージを聞く。</p> <p>4 学習したことを振り返り、グループで話し合う。</p> 	<p>【視点2-ウ】 T：帖佐人形作家さんからのメッセージを聞いて、今日の学習と同じところはありましたか。 C：作った人たちや昔の人たちも喜んでくれる C：次の人たちに残したいというところ。 C：伝統を絶やしたくないというところ。</p>
あたためる	<p>5 本時の学習で授業前と変わったところを考える。</p> 	<p>C：3学期に帖佐人形作りをするときは、伝統を残したいという気持ちをもって作りたいです。 C：いつまでも大切にしたい。私たちも作るときに受け継いでいきたい。</p> <p>【視点1-イ】② T：3学期に帖佐人形を作りますね。みんなが、どんな表情で人形を作るのか、どんな作品ができるのか、とても楽しみです。</p>

【視点1—イ】① 3年時の学習との関連を図った導入の工夫	考 察
<p>本時の学習問題を焦点化するために、3年生の時の総合的な学習の時間に学習したことを想起させた。想起しやすいように、当時の写真を提示した。</p> 	<p>3年生の時の総合的な学習の時間との関連を図り、児童の体験を想起させた。当時の写真を提示することで、帖佐人形を作っていた時の気持ちを発言する児童が多かった。</p>
【視点1—イ】② 事後の学習との関連を図った終末の工夫	考 察
<p>事後の総合的な学習の時間との関連を図り、実践への意欲を高めるようにした。帖佐人形作りに関する感想を書いている児童を意図的に指名した。</p>	<p>3学期に行う帖佐人形作りをする際に、「帖佐人形を大切にしてきた人のことを考えよう。」や「郷土の伝統を守っていききたい。」という発言があった。</p>

【視点2—ア】①,② 指導の要件「精神性」、「連続性」を踏まえた板書の工夫	
 <p>写真6 指導の要件を踏まえた板書</p>	<p>板書の下部は、忠ノ介が心の弱さを乗り越え、大切にしたい考え方や心構えに気付かせるために、指導の要件「精神性」を踏まえた板書の構造化を図った(写真6)。葛藤場面の挿絵を中心に左右に心の弱さ(右)と大切にしたい考え方や心構え等(左)に配置した。</p> <p>板書の上部は、伝統が昔から引き継がれたことや、自分たちも伝統をつないでいる中にいることに気付かせるために、指導の要件「連続性」を踏まえた板書の構造化を図った(写真6)。伝統の継承に携わってきた人たちと私たちを矢印で結んだ。</p>
考 察	
<p>「精神性」を踏まえた板書の構造化を図ったことで、心の弱さを乗り越えるために大切な考え方や心構えに気付かせることができた。また、「連続性」を踏まえた板書の構造化を図ったことで、児童から「自分たちの子供に引き継ぎたい。」「僕たちが守ればまた続く。」という意見が出た。</p>	

【視点2—イ】 指導の要件「連続性」を踏まえた発問の工夫	考 察
<p>「連続性」を踏まえた板書を基に、児童に、自分たちも伝統や文化を未来へ継承することへの責務があることに気付かせるために、指導の要件「連続性」を意識した発問をした。</p> 	<p>「連続性」を意識した発問で、児童から、「自分たちが大切にすれば続く。」「自分たちの子供につなげたい。」「未来へつなげたい。」といった発言が出てきた。</p>

【視点2—ウ】 地域のGTと連携し、実感を促す学習指導の工夫	考 察
<p>地域で帖佐人形を作っている方からメッセージをいただき、帖佐人形に対する想いや歴史、努力していることや苦労していることについて、ビデオレターで児童に視聴させた。</p> 	<p>GTからのビデオレターを見て、資料中の忠ノ介と類似しているところに気付き、伝統を守ったり継承していくために必要な心構えに気付いたり、今後の活動への意欲が高まったりした。</p>

オ 検証授業Ⅱ－②の構想と実際

(ア) 検証授業Ⅱ－②の構想

検証授業Ⅱ－②の主題と目指す児童の姿(図14)と、道徳の時間の役割を明確にした(図15)。検証授業Ⅱ－②で活用する資料は、始良市の素材を生かした資料である。検証授業Ⅰで学んだ郷土の自然、文化財である蒲生の大クスや運動会で踊った始良音頭との関連を図り、郷土の伝統を大切にすることの意義や地域の伝統行事との関わり方について考えさせることで、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深めていきたい【視点1－イ】。



図14 検証授業Ⅱ－②の主題と目指す児童の姿

STEP 3

各教科等との関連をSTEP 1で明らかにした視点を基に選択・検討する。

			人		もの		こと	備考	指導の要件
			郷土の人		自然※		地域の行事※		
教科等	単元名・教材名	時期	生き方	想い・願い	美しさ	歴史	願い		
学校行事	運動会「始良音頭」	10月		◎		○	◎		連続性
道徳	わたしの心のアルプス	6月			◎			文化財の保全	関連性
道徳	よみがえった日本の仏像	11月	◎	◎	◎			継承、発展させる意義・心構え	連続性 精神性

始良市の行事

・ 浜下り(市無形民俗文化財) ・ 太鼓踊り(県無形民俗文化財) ・ 午踊りなど

※文化財を含む

◎ 関連がある ○ やや関連がある □ は、関連を図る教科等

STEP 4

道徳の時間の役割を検討する。

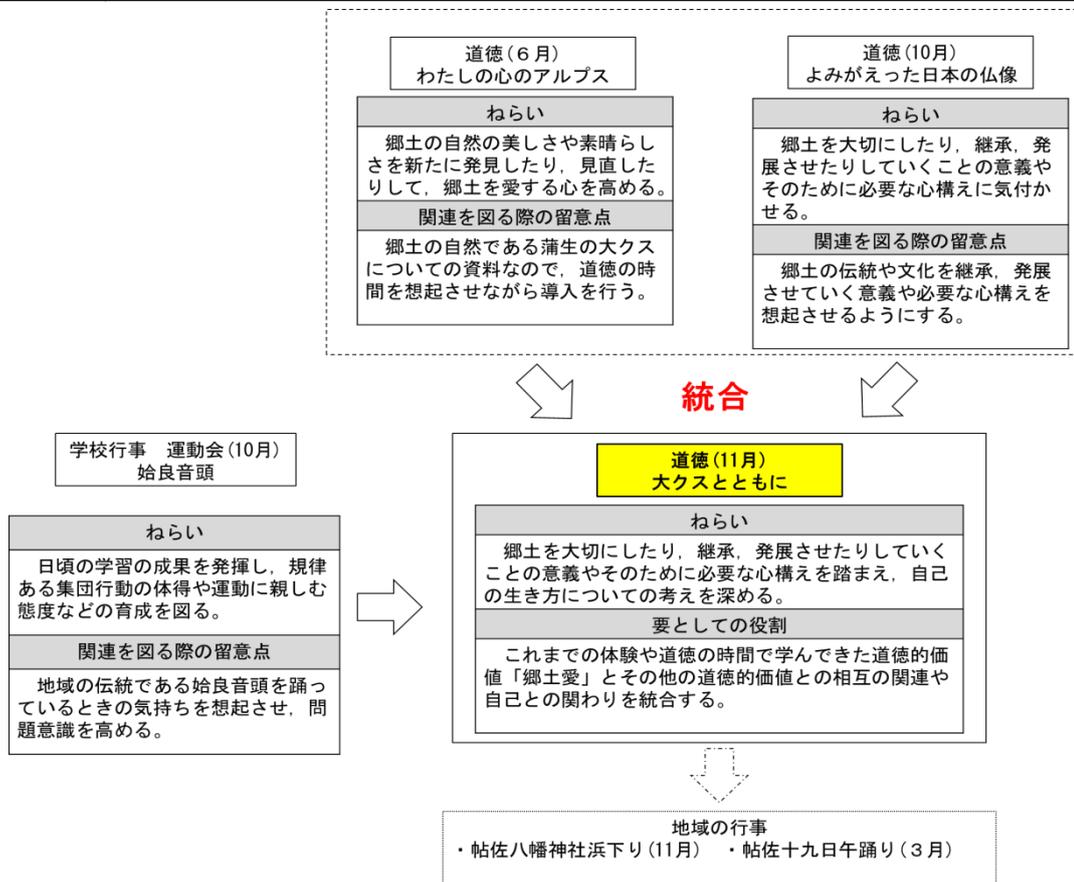


図 15 各教科等の関連を図った道徳の時間の構想(検証授業Ⅱ-②)

(イ) 検証授業Ⅰ, Ⅱ-①との関連を図り, これまでの学びをつなげる工夫【視点1-イ】

検証授業Ⅰ, Ⅱ-①との関連を図るために, 検証授業Ⅱ-②の事前に, 道徳学習シートを配布し, 児童一人一人にこれまでの学びを振り返らせた(写真7)。道徳学習シートを活用し, 授業の前に振り返らせたことで, これまでの道徳的価値「郷土愛」について学んだことを再確認することができた。



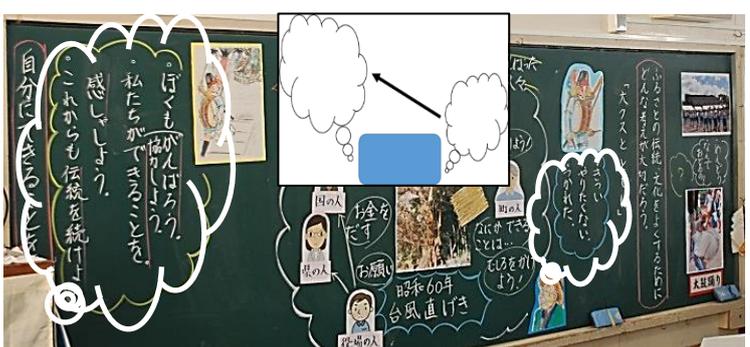
写真7 道徳学習シートを基に振り返っている様子

(7) 検証授業Ⅱ-②の実際

過程	主な学習活動	教師の働き掛け (T) 児童の反応 (C)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">気 付 く</p>	<p>1 伝統文化を継承、発展することについて、これまでに経験したことを発表し、学習問題を焦点化する。</p>  <p>写真8 太鼓踊りの視聴</p>	<p>【視点1-イ】 T: 運動会で、始良音頭を踊っているときに何を考えながら踊っていましたか。 C: 何も考えていない。 C: 面倒だな。 C: なんて踊るのかな。</p> <p>太鼓踊りの映像を見せる(写真8)。 T: みんなと同じくらいの子供も太鼓踊りをしていたけど、みんなと同じように何も考えずに踊っているのだろうか。 C: 何か考えているけど、何を考えているか分からない。 C: 踊っている人にしか分からないよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ふるさとの伝統、文化をよくするためには、どんな考えが大切だろう。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">捉 え る</p>	<p>2 資料「大クスとともに」を読んで道徳的価値「郷土愛」に関わる生き方について話し合う。</p> <p>(1) 資料「大クスとともに」の範読CDを聞く。</p> <p>(2) 一時間以上も踊り続けてきた大貴の気持ちを考える。</p> <p>(3) 大クスを守るために懸命に働きかけた町の人々の努力や苦労を知る (GTとの連携)。</p>  <p>(4) 再び踊り出した大貴の気持ちを考える。</p>	<p>T: 大クスを守るために、町の人たちがどんなことを考えていたのか、当時のことを知っている、GTの関さんに聞いてみましょう。 (※GT・始良市教育委員会社会教育課 関一之さん)</p> <p>【視点2-ウ】 GT: 町の人は、大クスをこのまま枯らしてはいけなくみんな思いました。しかし、何をしていたのか分からなかった。でも、何かしようと考え、水を掛けたり、むしろを持ってきたりしたそうです(説明の一部)。</p> <p>【視点2-ア】 (板書の構造化を図り、大クスを守るために様々な人々が関わっていることを捉えやすくする。)</p> <p>T: 大クスを守った町の人々の努力を知った大貴は、どんなことを考えながら、階段を駆け下りていったのだろうか(ワークシートに記入)。</p> <p>(全体での話し合い) C: 大クスに、太鼓踊りを見せたい。 C: 大クスのためにも、みんなのためにも頑張ろう。 C: いろいろな人が大切にしているから、大クスを大事にしよう。 C: 大クスは、始良の伝統、文化そのものだから、そのために踊っていこう。</p> <p>(5) 大貴が大切にしたい考えについて考える。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">深 め る</p>	<p>3 GTの話聞き、伝統や文化をよりよくすることについて考える。</p> 	<p>【視点2-ウ】 GT: 今を生きる君たちが、「文化財を守っていこう。」「途絶えさせてはいけない、枯らしてはいけない。」という思いをもつことが大事です。今日は、みなさんが、「自分にできることをしよう。」という意見が出たことを、私はうれしく思います。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">あ た た め る</p>	<p>4 学習したことについての感想をもち、これからの生活に生かしたいことについて考える。</p>	<p>T: 帖佐にも蒲生の太鼓踊りのように昔から続いている行事はないかな。 C: 今週末は、浜下りがある。 C: 午踊りもある。</p>

【視点1—イ】 学校行事との関連を図る工夫	考 察
<p>これまで継承されてきた伝統や文化について、解決していきたい問題をもたせるために、学校行事の運動会で行った始良音頭との関連を図った。始良音頭を踊っている写真を提示し、その時の気持ちを想起させた。次に、太鼓踊りを踊っている子供の写真を対比的に掲示し、問題意識をもたせた。</p> <div data-bbox="523 369 833 548" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>僕は、始良音頭を踊るとき何も考えていなかったけど、この子は、どんな気持ちで太鼓踊りをしているのかな。</p>  </div>	<p>運動会で踊った始良音頭は、全員の児童が体験した踊りであったので、その時の気持ちを想起し、共有化を図れた。</p> <p>また、太鼓踊りをしている子供との比較により、どんな気持ちをもつことが大切なのか、切実な問題意識をもった。</p>

【視点2—ウ】 郷土のよさの実感を促すGTと連携した学習指導の工夫	考 察
<p>捉える過程において、資料中の大クスが危機に瀕したときのことについての知識・理解を深めたり、大クスを守った人々の想いに共感させたりするために、GTから当時の様子を補足説明してもらった。</p> <p>また、深める過程において、郷土の伝統や文化と自分との関わりについての考えを深めるために、郷土の伝統や文化を守っているGTの想いや生き方に触れさせた。</p>	<div data-bbox="885 683 1428 940" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>蒲生の大クスも、太鼓踊りも、帖佐の浜下りも昔の人たちの努力があって、これまでつながっています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>大切なことは、「大事にしなければならぬ。」「なくてはならない。」という想いです。</p> </div> </div> </div>
考 察	
<p>GTの補足説明により、当時の状況や人々の想いが、より理解できた。また、太鼓踊りだけでなく、帖佐にある伝統行事や文化財についても話を聞き、自分の住んでいる地域にも昔から受け継がれてきた伝統行事があることを知ることができた。さらに、GTの想いを聞くことで、児童が伝統や文化を大切にしたり、よりよくしたりすることの意義や心構えについて考えていた。</p>	

【視点2—ア】 指導の要件「関連性」、「精神性」を踏まえた板書の工夫	考 察
<p>危機に瀕した大クスのために、たくさんの人々が関わっていたことや一人一人ができることを考え、実行したことを捉えさせるために、指導の要件「関連性」を踏まえて板書を構造化した。台風が直撃した大クスの写真を真ん中に配置し、関わっていた人々の想いや行動を板書した(写真9)。また、大クスを守った人々の想いに共感させるために、指導の要件「精神性」を踏まえて板書した(写真10)。</p> <div data-bbox="175 1411 670 1758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p>写真9 「関連性」を踏まえた板書</p>	<div data-bbox="678 1411 1428 1758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p>写真10 「精神性」を踏まえた板書</p>
考 察	
<p>「関連性」を踏まえた板書の工夫をしたことで、大クスを守るために、たくさんの人々が関わったことを直感的に捉えることができた。また、「自分にできることをしよう。」と考える児童だけではなく、「私たちができることをする。」という集団社会としての関わり方について考える児童もいた。</p> <p>「精神性」を踏まえた板書の工夫をしたことで、児童が、現在の生活の課題について考え、それを自己の生き方として実現していこうとする想いや願いについて考えていた。</p>	

カ 検証授業Ⅱの考察(○成果 ▲課題)

【視点1-イ】各教科等との関連を図る工夫

- 各教科等との関連を図った道德の時間を構想したことで、教師が道德的価値「郷土愛」に関する学びの流れを把握できた。また、郷土の人をGTとして活用したことで、郷土のよさを多面的に実感させることができた。
- 気付く過程において、各教科等との関連を図ったことで、本時の学習のねらいに沿った学習問題へ焦点化することができた。
- 検証授業Ⅱ-①では、あたためる過程において、総合的な学習の時間で行う帖佐人形作りへの意欲が高まり、道德的実践につながる学習が展開できた。
- 検証授業Ⅱ-②を行う前に道德学習シートを活用し、これまでの学習を振り返らせたことで、道德的価値「郷土愛」について全体的なつながりを捉えたり、これまでに深めた道德的価値の自覚を確かめたりすることができた。
- ▲ 道德の時間や関連を図った教科等での反省を改善し、次年度に引き継いだり、全学年の指導計画に生かしたりするための資料の保存が必要である。
- ▲ 道德学習シートを道德の時間だけでなく、各教科等でも継続して活用し、児童の郷土の対する考えや大切にしていきたい心構えを意識させる必要がある。

【視点2-ア】指導の要件を踏まえた板書の工夫

- 指導の要件を踏まえた板書の工夫をしたことで、伝統や文化を継承、発展させていくべき責務を自覚させたり、そのために必要な心構えに気付かせたりすることができた。
- ▲ 他の資料でも指導の要件を踏まえた板書の構造化がどのような場面で効果的なのか検証していく必要がある。

7 検証授業Ⅰ・Ⅱを通じた児童の実態及び変容の分析と考察

(1) ワークシートの記述から

検証授業Ⅰ，Ⅱを通して、ワークシートの記述から、以下のような児童の変容が見られた。

児童の記述(一部抜粋)			
【 ____は、郷土に親しもうに関する記述 ____は、郷土を大切にしように関する記述 ____は、郷土をよりよくしように関する記述 】			
	A 児	B 児	C 児
検証授業Ⅰ	・ 始良市には、いいところがないと思っていたけど、 <u>龍門滝や白銀坂などのいろいろなものに囲まれているんだなあと思った。</u>	・ ふるさとの自然は大事だなと思いました。 <u>自分の身の回りには、ふるさとの自然がたくさんあることに気付いた。</u>	・ 私たちのふるさと始良市にも <u>たくさんきれいな自然があることを知って</u> とてもうれしく思った。
検証授業Ⅱ-①	・ 僕たちだけでなく、昔から作った人や大切にした人たちがいるから、 <u>日本の文化を大切に守っていき</u> たい。	・ 私は、 <u>日本舞踊をしているけど、それを諦めずに未来につなげたいと思った。</u> (略) <u>未来につなげたい、諦めない気持ちが大事だ</u> と思った。	・ 少しでも昔から続いている伝統を残していくために、 <u>「大切にしていこう」という気持ちをもって、私たちが受け継いでいくことが必要だ</u> と思う。
検証授業Ⅱ-②	・ 今、自分ができることがたくさんある。都合が悪いときでも <u>伝統、文化を知らない人たちに教えたり、参加したり</u> したい。	・ 私は、 <u>自分のできることをながくできるように</u> なりたいと思いました。それが <u>伝統、文化を守る方法の一つだ</u> と思った。	・ 私も、 <u>帖佐の伝統浜下りに参加する。そのときに、帖佐の文化をなくさないためにも、自分にできることをしたい。そしてみんなにも広めて</u> いきたい。

A児やC児は、検証授業Ⅰで「郷土に親しもう」とする記述であったが、検証授業Ⅱ-②では、「伝統や文化を教えたり参加したりしたい。」「帖佐の文化をなくさないために自分にできることをしたい。」という、「郷土をよりよくしよう」とする記述が見られた。指導の要件を踏まえた板書や発問の工夫や郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫をしたことで、郷土のよさを多面的に実感したり、郷土を愛することの意義を理解したりすることができたと考える。また、B児のように、検証授業Ⅱで、自己の生き方についての考えを深めている記述が見られた。GTの活用や自分との関わりで道徳的価値「郷土愛」を捉える発問の工夫を行ったことが効果的であったと考える。

(2) 道徳の時間との関連を図った国語科の学習から【平成26年12月実施】

検証授業後に、道徳の時間との関連を図った国語科の授業(「千年の釘にいどむ」)を行った。この授業においても、道徳学習シートを活用したり(写真11)、指導の要件「連続性」を踏まえた板書を構成したりした(写真12)。授業の中で書かせた初発の感想では、検証授業で考えたことや感じたことを踏まえながら、釘職人の想いや生き方について記述している児童が多かった。

国語「千年の釘にいどむ」の授業で児童が書いた初発の感想(一部抜粋)

- ・ この勉強をして、前の道徳と似ているところを見付けた。それは、どの人も守っていく、未来へつないでいくということを大切にしているということ。つないでいくために努力しているのはすごいことだと思う。
- ・ 白鷹さんは一生懸命な人です。(略)今までの学習したことと共通することがあります。それは、昔からある伝統文化、自然を守って未来へつなげていきたいという人々の願いだと思います。
- ・ 白鷹さんは、何事にも諦めないでいるので、私も諦めず、努力していきたい。伝統などを未来につなげて、伝統を広げていきたい。
- ・ 白鷹さんが、納得のいくまで作り直す姿に感動した。絶対諦めないことにびっくりした。未来に残したい気持ちはみんな一緒なんだなと思った。



写真11 道徳学習シートの活用

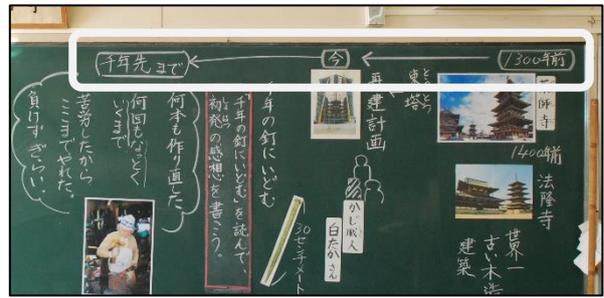


写真12 指導の要件「連続性」を踏まえた板書

(3) 事後アンケートの結果から

検証授業前に比べ、「始良市の自然に触れたり眺めたりすると『いいな』と思う。」「始良市の伝統や文化に触れたり調べたりすると『いいな』と思う。」という質問に対し、「そう思う」、「少し思う」と回答する児童が増えた(図16)。

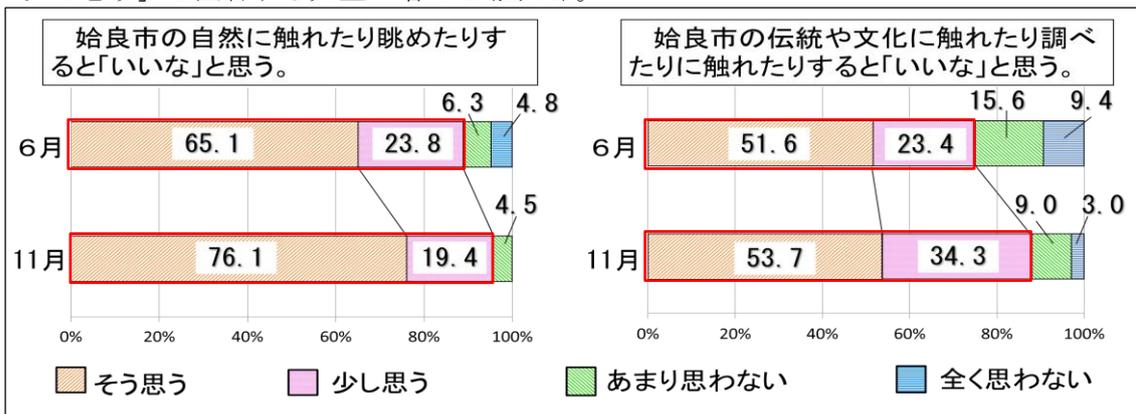


図16 郷土の「自然」、「伝統や文化」に対する意識調査 (帖佐小学校第5学年の児童のみの結果)

また、「始良市の催しや行事に進んで参加しようと思いますか。」という質問に対して、「そう思う」、「少し思う」と回答した児童の合計は、85.1%であった(図17)。以上の結果を踏まえると、郷土のよさを実感した児童の割合が増えたことが分かる。すなわち、各教科等との関連を図った道徳の時間を通して、郷土のよさを多面的に実感できたものとする。

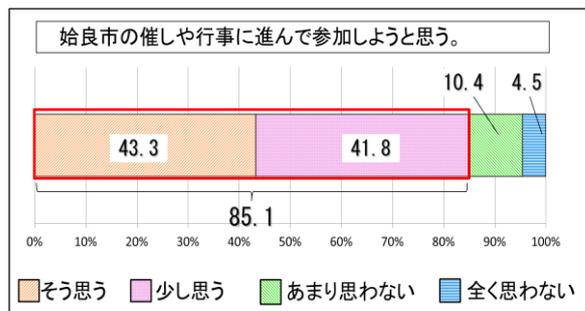


図17 郷土の「催しや行事」に対する意識調査
(帖佐小学校第5学年の児童のみの結果)

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 郷土を構成する要素や郷土を愛する児童の段階、指導の要件を基にしながら、価値分析や資料分析を行ったことで、指導する内容を重点化し、目指す児童の姿を明確にもつことができた。
- (2) 各教科等との関連を図った道徳の時間の構想の手順を明らかにしたことで、明確な視点や目的をもって各教科等と道徳の時間の関連を図ることができた。また、事後の指導の見通し、意図的・計画的な学習を展開することができた。
- (3) 指導の要件を踏まえた板書や発問の工夫を行ったことで、郷土を愛することの意義や郷土を発展、継承するために必要な心構えに気付かせ、道徳的価値「郷土愛」の自覚や自己の生き方についての考えを深めさせることができた。このことから、郷土を愛する児童を育てることができたと思われる。
- (4) 道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める発問の工夫を行ったことで、児童が切実な問題意識をもち、自分自身との関わりを意識して学習に臨むことができた。
- (5) 郷土のよさの実感を促す学習指導の工夫を行ったことで、児童の郷土に対する知識・理解を深め、郷土のよさをより多面的に実感させることができた。また、G Tの活用の在り方について整理することができた。

2 今後の課題

- (1) 道徳的価値「郷土愛」は、様々な内容項目との関連があるため、内容項目間の関連も踏まえて、道徳教育の年間指導計画を見直す必要がある。また、見直す際は、各教科等との有機的な関連を図り、指導時期や指導内容を検討していく必要がある。
- (2) 指導の要件を踏まえた板書の構造化や発問を児童の発達の段階に応じて行うために、他の学年での実践を通して検証していく必要がある。
- (3) 郷土のよさをより多面的に実感できるように、郷土素材の発掘や地域のG Tとの連携、郷土素材を生かした資料の作成や活用を積極的に行っていく必要がある。
- (4) 今回の検証授業で使用した掲示物やG Tへのインタビューの内容等を写真13のようなファイルに保存し、学校全体で共有化できるように整備していくとともに、今後も情報の蓄積を行っていく必要がある。また、道徳学習シートを全学年で作成し、6年間を通して、学びの足跡を残せるように工夫する必要がある。



写真13 道徳学習の共有化を図るファイル

〈引用文献〉

- *1) 文部省 『小学校 郷土を愛する心を育てる指導』 昭和62年 大蔵印刷局

〈参考文献〉

- 文部科学省 『小学校 学習指導要領解説 道徳編』 平成20年 東洋館出版
- 文部科学省 『中学校 学習指導要領解説 道徳編』 平成20年 日本文教出版
- 文部省 『小学校 学習指導要領解説 道徳編』 平成11年 国立印刷局
- 文部省 『中学校 郷土を愛する心を育てる指導』 昭和62年 大蔵印刷局
- 武蔵村山市
教育委員会 編著 『我が国と郷土を愛する態度を育てる
授業づくり』 2010年 ぎょうせい
- 押谷由夫・
小寺正一 編著 『小学校学習指導要領の解説と展開
Q&Aと授業改善のポイント』 2008年 教育出版
- 赤堀博行 編著 『心を育てる要の道徳授業
補充・深化・統合へのアプローチ』 2010年 ぶんけい
- 押谷由夫・
柳沼良太 編著 『道徳の時代が来た』 2013年 教育出版
- 押谷由夫・
柳沼良太 編著 『道徳の時代をつくる』 2013年 教育出版
- 鹿児島県教育委員会 『伝統文化の継承活動等を通じた心の教育』 平成20年
- 鹿児島県教育委員会 『平成23年度「心の教育振興会議」提言』 平成24年
- 始良市教育委員会 『わたしたちの始良市』 平成23年
- 鹿児島県
総合教育センター 郷土教育 第1号
『鹿児島の文化，歴史，伝統等，
地域素材を活用した郷土教育の充実』 平成21年
- 福岡県
教育センター 『よりよい実践に結びつく道徳教育の
在り方-道徳の時間を中核として-』 平成14年

長期研修者 〔 四元 大輔 〕
担当所員 〔 中村 武司 〕

【研究の概要】

本研究は、各教科等との関連を図った道德の時間の指導を通して、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てる道德学習の在り方について研究したものである。

具体的にはまず、郷土の構成要素を分類・整理し、郷土を愛する児童の段階を明らかにした。そして、それらを基に、各教科等との関連を図った道德の時間の構想について明らかにした。さらに、道德の時間において、道德的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫について授業を通して検証を行った。

その結果、道德的価値「郷土愛」の自覚を深める道德の時間の構想の在り方が明らかになった。また、郷土を意識し、積極的に関わろうとしたり、郷土の伝統や文化をよりよくしようしたりとする児童の姿が見られるようになった。

【担当所員の所見】

本研究は、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てるために、各教科等との関連を図る道德の時間の構想の手順や児童が道德的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の在り方について研究したものである。

道德教育において、郷土に対する愛着や誇りをもたせ、郷土を愛する心や態度を育むことは大切である。そこで、郷土の構成要素を「人・もの・こと」と捉え、その内容を分類・整理するとともに、郷土を愛する児童の段階を心情面と行動面から明らかにした。さらに、児童が郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する心を育むために、教科等との関連を図った道德の時間の構想の手順を明らかにした。併せて、道德的価値「郷土愛」の自覚を深めるための指導の要件を「連続性・関連性・精神性」とし、その要件を踏まえた発問や板書の工夫についても明らかにした。道德の時間における目指す児童の姿や扱う資料の内容、関連を図るべき各教科等を明らかにする上で、教科等との関連を図った道德の時間の構想の手順は、有効に働くと考える。また、本研究によって提案された指導の要件を踏まえた発問や板書の工夫は、道德的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の一つとして、授業づくりに生かせるものである。

「郷土愛」に関する指導を行うためには、教師自身の郷土に対する知識・理解が不可欠である。今後も、研究と実践を継続する中で、郷土に関する情報収集や分析を行い、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てるための指導の在り方について研究を更に深め、その成果を学校及び先生方に還元し、道德教育の推進に努めてほしい。